

伊豆七島志
卷中下

2913/9
A372i

秋山章
萩原正夫

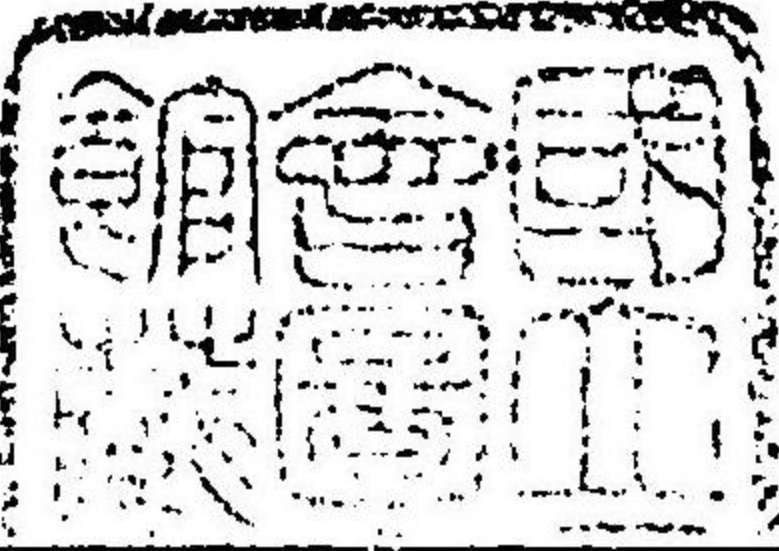
纂輯

伊豆七島志

松園藏版



223543



伊豆七島志卷之中

八丈島

總説

豆州

秋山章

萩原正夫

纂輯

○八丈ハ八郎ノ轉訛ニシテ往昔鎮西ハ郎爲朝本島ヲ略有セルヨリ起レ
ル稱ナリト云島語今ナホハ郎ト云フ可キヲハツチヤウト呼ブ或云古來
ハ丈繩ヲ織出セルヨリ起レル島名ナラムトハ丈繩ハ長ハ丈アルカ故ノ名ナラムト ○一説ニ
曰フハ丈ハ田ヤタケト訓ミハ嶽ノ義ニシテ山嶽自ハ八嶽二分レタルヨリ
起レルヲ後音讀シテ現稱トナレリト

○此島ヲ往古オキノ島ト呼ブ百練抄今昔物語和古今著聞集保元物語等
ニ隱岐島澳島與島沖島等ニ作ル是レナリ玉海大日本史等ニ載島ト書スルハ誤リナリ ○三宅記

○外人ハ女護島女國女子郷女人國綜嶼ナド稱シタリ後漢書東夷傳曰

中

海中有女國無男人或傳其國有神井闕之輒生子文獻通考四裔考曰慧深云女國在扶桑東千里其人容貌端正色甚潔白身體有毛髮長委地至二三月競入水則妊娠六七月產子食鹹草葉似萍蒿而氣香味鹹按スルニ獨陽生ゼズ獨陰成ラズ神井ヲ闕テ子ヲ生ミ水ニ入リテ妊娠スル說傳聞ノ誤リナルヲ言ヲ待タズ凡伊豆諸島女子甚多シ往古ハ殊ニ然リシナラム故ニ女國其他ノ名ヲ得タルナリ近年韓人著ス所ノ日觀要考女子郷ノ條ニ東南海有八丈島地大民衆女居什七八故名今屬倭トアリ又圖書編ニ伊豆州相摩州ヲ圖シ隔海至東南女國界ト註シタルヲ以テ女國女子郷等ノ八丈島ナルヲ知ル可シ韓人申叔舟が海東諸國記ニ女國距陸與十三里トアルハ謬リナリ太平御覽外國記曰周洋泛海落綜嶼上多貯有三千餘家云是徐福童男之后風俗似吳人ト按スルニ綜ハ機織又織文八丈ノ島民機杼ニ巧ナリ故ニ綜嶼ト名ケシナリ

位置

北緯三十四度四十七分半ニアリ東京ヨリ午ノ方一百廿里伊豆爪木岬

ヨリ南東四十七里余御藏島ヨリ南少東廿里ニシテ七島中最南ニアリ
志州大王岬へ成ノ方百十里紀州沙ノ岬へ百成ノ方百五十六里小笠原島へ午ノ方百八十里

形勢

東西二里半南北四里周回十里十三町十八間七島中最大ナリ
○島ノ中央ニ三原山聳立シ乾位ニ西山突起シ村落皆其山脚ニ點在ス大賀郷三根二村ハ地勢平夷ナリト雖末吉中郷極立三村ハ高燥ニシテ差險阻ナリ○大賀郷ヨリ極立ニ上ル坂路ヲ大坂ト云フ島中第一ノ峻坂ナリ
峠ヲホツキリト云フ(近年新道ヲ開通レ大ニ峻坂ヲ平ケタリ)三根ヨリ末吉へ越ル處ヲ登龍坂ト云フ故ニ大賀郷三根二村ヲ坂下ト呼ビ末吉中郷極立ノ三村ヲ坂上ト稱ス周圍ノ海岸ハ數十仞ノ巖壁峙立シテ容易ニ上陸ス可ラス海ノ深サハ岸下ニテ三四十仞ヨリ六七十仞ニ至リ岸ヲ距ルヲ數十歩ノ處ニテハ二三百仞ニ至ル海底巖石ニシテ泥沙ナキ此島ニ船ヲ寄セントスルニハ波濤高キ時ハ洋中ニ漂ヒヤ、靜穩ナルヲ待テ着岸ス可シ而テ船ハ島民數十人相集テ大艇ニテ岸上ニ曳上ルナリ故ニ船ノ出入甚危険ニシテ數破壞ノ患アリ近年大賀郷三根二村ニ小島ヲ設ケタルヲ以テ船ヲ寄スルニ稍便ナリ他ノ三

風俗

○人物横直ニシテ情厚シ邦人ト相分ル、時ナド速ク送リテ洋泣ス坂上三ヶ村
ハ風俗海濱ナレ坂下ニケ村ハ陸地然レモ小ノ地ニ住ム故偏屈ニシテ通
ナリ概シテ遊歩作法ヲ知ルモノナリ
 變ノ才ナク緩慢且懶惰ニシテ進取ノ氣象ニ乏シ農事漁業モ怠慢アルモノニ
施レ與ヘテ貯ルコトナレ

○此島ノ女子色白ク髪黒クシテ長シ起テ髪ヲ垂ルレバ地ニ委スル一
 二尺ナルアリ鬘髪ハ島田鬘ト云フニ似タレ之ヲ前後左右ヘ傾ク可ク
 結ビテ物ヲ戴クニ便ニス而テ西内紙ヲ細ク折リタルニテ束又山茶油ヲ
 用井黄楊掃ヲ掃スノミニテ他ノ裝飾ヲ施サズ鉄漿ハ深レレ從來眉毛ヲ
 剃ラズ○常ニ紅白粉ヲ粧フ一ナケレレ體格優ニ容貌美ニシテ眞ニ女國
 ノ名ニ適ヘリ伊豆日記ニ曰ク女ノ髪イト長レコトニ長キハ六尺三寸アルヲ見ク
又ナリ觀ハスベテワカレ年五十ナリト云者ノ四十二ハ足ヲツ見ク
ル大方ト女子ハ内ニアリテ家政ヲ主リ且島民生計ノ本タル織紵ヲ業ト
 シ男子ハ外ニ在テ常ニ勞役ニ從事スルヲ以テ自男尊女卑ノ風アリ女子
 物ヲ運ブニ例ノ頭上ニ載キ又籃ヲ背ニ負ヒ紐ヲ頭ニ掛ケテ運ベドモ甚
 少量ニシテ他島ノ比ニアラズ

○古來島民ノ家格ニ貴賤ノ別アリテ里俗トノ筋テ、筋ト云フトノ筋ノ
 女子ハ毛髮長クシテ容姿端正ナレテ、筋ノ方ハ髮短ニシテ短ク品格
 自賤シク其貧ナル者ハ襤褸ノ衣服ヲ着且入俗スル一希ナルヲ以テ塵垢
 皮膚ニ滿チ惡臭口ヲ刺ス此ニ族今尚家格ヲ論ジテ嫁娶セズ

○島民ノ衣服ハ夏ハ率綿布ノ單衣ヲ着ル間締結ヲ着ル者アレレ甚少ナ
 シ冬ハ袷衣ニシテ絮衣ヲ着ル者ナシ貧民ハ夏日裸體ニテ下帯ノ冬婦女
夜寝ルニ臥具ナク纏ヲ圍ミテ寝ル
 ノ帯ハ通例廣尺許長五六尺ノ蘇芳スガ染ノ布ヲ用井老幼トモ前ニテ結ブ婦
 女外出スルニハ夏ハ手巾冬ハ袷衣ヲ被リ降雨ニモ雨傘ヲ用ル一ナシ是
 風強キガ故ナラム又樹皮ニテ印籠ヲ製シ長キ紐ニネリ結玉ヲ貫キテ腰間ニ
 垂ル印籠ヲ垂ル
風習近年止ム

○島民通例朝夕ノ食ハ朝粥夕粥ト呼ヒテ鹹草其他ノ諸菜海藻等ノ中へ
 麥粟等少量ヲ混和シ潮水ニテ粥ヲ煮テ食ス伊豆日記ニ曰ク凡十人ノ食小麥三
四合ヲ煮クワカレ湯ノ如クナレ
タル中へ鹹草ヲキヤミ入レ潮水或ハエンハイト云モノヲ入レテ食フ十人ニ三四合ノ麥
ナレバタハ鹹草ノミニテ麥ハアルカ無キカニ見ユ試ニコヒテ味ヒミルニ得モ知ラヌニ
ホヒレテ二口ト餐フ通ラズカハル物ダニ絶クマアハナクヤクナハマア午餐ニハ鹹草
レダアヤミナド云者又海ノ鹹イロハ採リテ潮モテ煮テ食トス云々ト

ノ根、甘藷、蕪菁等ヲ煮或ハ焼テ食シ、穀ヲ交ヘズ、富者ハ常ニ米食スレ、極
 テ希レニシテ、島中三四十戸ニ過ギズ、貧民モ節分及大晦日ニハ晚餐ニ米飯一籠ヲ
 食ス、通帯ノ島民米食ヲナスハ只此ニ四ノミ
 ○農事怠慢ニシテ、穀足ラサル故ニ、食物殊ニ鹿、麩ナリ、○島民鯛、鯉魚ノ丸
 叩キ、鱒魚ノ塩煮ヲ上膳トシテ尤賞味ス、
 鰻魚ノ丸、アハキト云フハ、鰻魚ヲ塩煮ニ
 ニ丸メタルニテ、麥ノイ
 リ粉ヲカケテ食フナリ

○島民酒ヲ嗜ミ、船便ニ都下ヨリ輸シ來レバ、男女舉テ之ヲ珍重スル、
 二過ク佳節祭禮等ニハ、毎戸濁酒ヲ造リ、酸醱ニテ飲ム酒ヲ造ルニハ、梁ヲ
 最トシ米、麥、蜀黍、甘藷之二次ク、
 又甘藷ニテ焼酎ヲ釀造シテ飲ム、鹹草ノ
 根ニテモ焼酎ヲ造ルト云フ尚、煙草ヲ好ム、
 一國地ノ人ニ倍ス可シ

○味噌、醬油ヲ製造使用スルハ、富者ノミニシテ、通例魚ヲ肉替トシテ貯ヘ
 置キ之ヲ塩配ト稱シテ、上水ヲ醬油ノ代用トシ、沈澱ヲ味噌ノ代用トス、
 酢ハ蜜柑、香橙、回青橙等ヨリ搾ル、又島地舊、豆腐ナカリシニ、寛政中流人始テ
 其製法ヲ傳フ

○家屋ノ構造ハ、簷低ク、地板高クシテ、板及竹、實鬼、芒等ヲ壁トス、屋根低キ
 ハ風烈キガ爲ニシテ、地板高ク且壁土ヲ塗ラサルハ、白蟻多キガ爲ナリト

云フ、○伊豆日記ニ曰ク、大風一年ノ多クニ、五度七度ナキ、
 一ハナキヲ以テ家ヲ造ルニハ、大
 タセザレバ、軒端ヲ風ニトラルト云フ、
 伊カニツヨキ釘ニテモ、釘ノ力ニテハ、吹キトラルト
 プ宗福寺ノ本堂ナドヨキ、器作ナレモ、
 軒端ハ同シ、事ニテ釘ハ用ヒス、
 屋根ノタラヘ吹キ入
 ルヲ恐レテ、軒ヲ低クスル故、家ノ内スベテ、
 暗トシ、
 穀粟ハ柱毎ニ地上四五尺ニシテ
 鏝形ヲ付ケ、其上ニ板ヲ布ク、
 其下ハ吹キ通シナリ、
 然セザレバ、穀損傷シ且
 虫ヲ生ズ、
 米ハ之ヲ貯藏スル、
 一一年ニシテ大半減ズルヲ以テ、
 初ニテ貯ヘ
 オク、
 初ニテハ二年ヲ保ツ、
 麥ハ三年ヲ保ツ、
 可シ、
 梁稗ハ十年以上ニ及ブ、
 氏
 損傷スル、
 一ナシ、
 初ヲ貯ルニハ、
 稻ヲ刈テ、
 數日間乾シ、
 稈心ノマ、
 束子テ、
 糜
 ノ梁ナドニ掛ケ、
 オクナリ、
 又毎戸、
 蠶室アリ

○從來舊慣ニテ、分戸ヲ禁ジ、又嗣子ノ外妻ヲ娶ル、
 一ヲ許サズ、蓋シ戸口増
 加スル時ハ、生計ニ影響スルヲ以テ、ナリ故ニ、一家ニ從祖伯叔父姑舅姨等
 同居シ、戸籍ノ錯雜少ナカラズ

○女子年十三四ニ至レバ、自家ニ起卧スル者希レニシテ、概テ夜ハ他家ニ泊
 シ、晨起家ニ歸ル、而テ毎戸夜中門戸ヲ閉鎖スル、
 一ナク、深更人ノ出入スル
 モ怪トセザルヲ以テ、自淫行多ク、私生兒少ナカラズ、
 方言之ヲヤン子ト云

フ私生兒ヲ養育スルハ女子ノ任ニシテ男子ハ顧ミズ故ニ保護完カラズ
シテ夭死スル者多ク其生長スル者モ富家ノ奴婢ト爲ルニ過キズ然レモ
有夫蓋及夫ヲ重ルハ大ニ之ヲ恥辱トナシテ甚希ナルガ如シ

○増島氏貧困ニ迫リ或ハ其他ノ事情ニヨリ生兒ヲ壓殺シ又墮胎洗兒等ノ
事殆ト公然行レテ怪トナス者ナシ毎村陰ニ其手術ヲ以テ糊口スル者數名
アリ手術ノ謝儀ハ黄油一
反リ贈ルヲ例トス故ニ母子非命ニ死スル者全島毎年三百人ニ下ラズ
ト云フ

○増島氏從來文字ヲ知ル者希ナルヲ以テ男女ヲ戀ル時ハ小形ノ草履ヲ靴
書ニ代テ贈リ意志ヲ表セシモ此風習近年止ミタリ伊豆日記ニ曰ク島人女ヲ
贈ヒワビテモ大方ハ物カ

カネハ文オソルハセズ小ク作りタル草履ニ色々ノ漆糸ヲソヘタ、夕紙ニ包ミテ贈ル女
ソノ心ニ從ハント思ヘバソレヲ取收ム從ハサレバソノマ、尻ストナン此事陸奥ノ繪本ノ
古事ニ似テ又草履ヲソフルハ女ヲラベノ昔物語ニスル女護ノ島ヘ男渡レバ草履ヲカスカ
ス出レテ男ノハキタル草履ヲレレニ違ニ定ムトヤラム其風俗ノ殘レルニヤト

○増島婚禮ハ新婦頭ニ手巾ヲ被リ綿布其他ノ柄襦ヲ着テ夫家ニ嫁ス柄襦ヲ
方言ホウリキト云フ同行スル者親戚數人ニシテ富家ニテハ着袴スル者
アレモ通例常服ノマ、ナリ而テ婚嫁ニ媒人ナク男女相愛スレハ即配偶

トナル

○每家蠶神ヲ祭リ方言之ヲシヤアガミト云フ○土神ノ祭禮ニハ青篠ヲ
門前ニ建テ七五三ヲ引廻シ家ニ凶事アル時ハ藁ヲ束ネ其末ヲ焼キタル
ヲ門前ニ置テ標ス

○増島一月一日ハ拂曉各自本家タル家ニ集リテ年始ヲ祝シ而テ村内ヲ廻禮
ス國地ノ如ク雜煮ヲ煮ルハナシ然レモ鏡餅ノ徑五六寸ナルヲ年賀トシ
テ贈答ス貧家ニテハ甘藷芋、蘿蔔等ヲ贈答ス二日常ノ如ク業務ニ從事ス
同九日ヲコンチノ日ト云ヒテ餅ヲ油揚トナシテ朝饌ニ食ス十五日ト部
ト稱ヘテ粟ノ粥ヲ煮竹筒ニ入レテ年ノ吉凶ヲトスル式アリ上己ニ雄遊
ビト云事ナク唯女兒ハ草ニテ人勝ノ如キ形ニ作り之ヲ早草女ト呼ビテ
翫ブ五月幟ヲ立テズ七月七夕祭ナシ

○中元ニハ相集リテ踏舞ヲ爲ス男女群ヲ異ニシテ歌ノ音節ニ從ヒ楯圓
形ニ循環シテ踊ル其歌ハ

「コエテ、ヤレコリヤ松原ヲコエテ、ヤレコリヤ松原コエテ伊勢踊リ」
「ハシ口舟ニカ、ナアエーワシヤノリタケガアトノ見ラレル、ヤレサマ、ナー

ユエニ

「舟ノヤグラニ、ナアエー小松ヲスエテ、小松嵐ア、ヤレ舟ナア走ル」

「ヤレ歌ノ初ハ、大島バラア、利島ツマンデ、新島ヨ、ソレニ式根ニ、トマリ
島親ハナケレド、カウツ島、三本岳ニ、アフゾバコ、御藏島ヨハ、上ニキテ、ハ
丈丹後ヲ、ツミニクル、メアタクヲサマル、ミヤケ島」

總テ、音節長クシテ、句ノ間ニ、アハ、エンヘ、オンホ、ナド挿ム故ニ、文句間取

リ難シ○又中元ニ、閩牛ノ遊戯ヲ、爲シ牛角ニテ、闘争セシメ、各其勇猛ヲ競

フ○伊豆日記ニ曰ク、タラシニ七キ、聖紀ルナド、國地ニ變ラズ、尺五般を、ク佛ニ手向ルモノ
ヲ、ダニタエ、ハ、ナレバ、盆トテ、モ同ク、蘇草ノ、維水ニテ、取ヲ、フクラレ、此ノ、庭カレ、コノ、芝原
ニ、禁ヒテ、老タルモ、若キモ、男モ、女モ、カレ、遊ア、男ハ、エビラトテ、短キ、單衣ヲ、若女ハ、マダラ
ト、アイトモ、長キ、單衣ヲ、若ル、帶ハ、國地ノ、如ク、廣キハ、用キ、ズレテ、ナメテ、蘇方、海ノ、レゴキ、帶
ナリ、聲ヲ、カレ、シ、歌ヲ、ア、ヒ、手ビヤ、タレ、捕ヘテ、立辨フ、サマカ、ル、處ニ、カ、ル、事ノ、アリ、ケル、モ
珍ラレ、又、牛ニ、角合セ、サセテ、勝負ヲ、試ル、年毎ニ、盆ノ、遊ビ、ナリト、ナン、牛合セニ、マケ、シト、テ
常々、牛ヲ、ヨリ、養ヒ、カフ、ベキ、ト、云フ
ニ、此、遊ビ、テ、設ケ、タル、ナリト、云フ

○婦女臨産及經水ニ際シテハ、家ニ居ルヲ禁シ、山中ニ他屋ト云フヲ作り
オキ之ニ入ラシム○此他屋ニ在ルモノハ、兩親大患ニテ死ニ臨ムト、雖家
ニ歸ルヲ禁ジタリシガ、此風習近年全ク止ミタリ

○此島ニテハ、穀類ヲ量ルニ、何合何勺ト云ハズ、一升以下ハ、何杯何程ト云
一杯ト云ハ、京升ニ合五勺ナリ、此一杯ヲ十四合セテ一升トナス、即京升三
升五合ナリ、其一升十四ヲ以テ一俵ト爲ス、即京升四斗二升ナリ、穀物ハ、餘
尺八尺ヲ一尺ト云ヒ、四尺ヲ一端ト爲ス、即一端ハ三丈二尺ナリ、糸ハ、筋ヲ
數ヘ、何十ヨミト云フ、一ヨミハ八尺ツ、四十筋ナリ、又秤ニテモ、カク二升并
ノ事ハ、丈島及、屬島、青島、小島ハ、此ノ如ク、他ノ
島ハ、皆京升ヲ用、升又ニ丈七尺ヲ一端ト爲ス

産業

○男子ハ、農漁ニ從事シ、餘暇山ニ入テ、薪材ヲ伐採シ、或ハ、薯蕷、草蓆ヲ掘ル
女子ハ、蠶ヲ養ヒ、絹紬ヲ織ルヲ專トシ、勞役ヲ爲サス

○農作物ハ、大賀、薺、三根、二村ハ、土地低キ故、五穀ノ穂ニ出ル者ヲ作り、他ノ
三村ハ、高燥ニシテ、風力強キヲ以テ、鹹草、蘿蔔等根ヲ用ルモノヲ多ク作ル
本島ノ米粒大ニシテ、味淡泊、豆州ノ下米ニ比ス可シ、甘薯ハ、地味ニ適シテ
味殊ニ美ナリ

のつとらト云フ呼ベバあいと答フベキヲをうト云フ此をうハ古ノ應祥ノ存レルナラム又語尾ニまんでト云フ附ス嬉しくてまんで悲しくてまんでナドノ如シ此まんでハ堪ヘラレ又意ナリ人名亦異稱多シ女子ニせんぶり、まんまる、たかり、ちよんがり、ふせう、とうす、をりよし、さみよし、ほどよし、かほよし、風よし、くすたかり、あつむ、くすむし、ナド。男子ニふど、東司、朝比奈、辨慶、げんとく、ナド少ナカラズ同名アリテ辨別シ難キ時ハ權兵衛まよこ、ハ兵衛てご三助たかり、太郎あつばナド親ノ名ヲ肩シテ呼フ然レモ如此異稱近年大ニ減少セリ

沿革

○本島モ他ノ諸島ト同ク事代主神ノ眷族ノ開創ニ係レリ三宅記ニ三島明神沖ノ島ニ置キ給フ后ヲいおむえの后一本ハ八十ト申ケル其御殿ニ王子五人存ス其後カクレサセ給ヒケレバ嫡子ト次郎ノ王子トハ手ヲ執リ合ヒ思ヒ死ニ終ラセ給ヒ石トナリテ第兄ノ尊トテ立チ給ヘリ二人ノ御子ハ幼少ニテカクレサセ給フ五郎ノ王子ノミ沖ノ島ニ在ストアリ此いおむえの后トアルハ優婆夷命五郎王子トアルハ許志伎命ナル可クシテ

其祠宇ハ共ニ式内ニ列セラルレバ是レ本島創始ノ祖ナルヲ疑ナカル可

シ○宗福寺ニ天文中備浮遊ノ記セル世代記ヲ載ム書中ニ往古異神眷族ヲ申テ東海ニ至

○此島往古一定ノ島主ナクシテ神職ナド支配セシト見ユ後源爲朝本

島ヲ侵掠シテ據有スルヲ數年其子孫西山ノ麓ニ館シ奕世入道、官ト号シ

テ島長タリ其家老ヲ太夫ト稱ス入道官六世ヲ雲加ト云ヒ其子ヲ若宮ト

呼ブ永享中ヨリ武州金川ト交通セルヲ以テ金川ノ領主與山宗麟島情ヲ

偵察シ其臣作右衛門太郎ヲ遣シテ入道、官雲加及若宮ヲ擊タシム雲加乃

太郎ニ降り僧ト爲リテ端翁宗的ト号ス此事浮遊ノ世其後宗麟與山八郎五

郎忠茂ヲ代官トシテ渡島セシム忠茂ハ今ノ神職○文明十八年忠茂ノ子新

五郎忠利之ニ代ル忠利ハ忠茂ノ弟延徳中北條早雲ノ家臣朝比奈

六郎知明來航シテ島人ヲ懷服シ貢納等ヲ定メテ歸ル早雲伊豆下田郷ヲ

知明ニ賜ヒテ之ヲ賞ス○北條五代記ニ曰クハ文島ヲ始テ見出レハ延徳中五州賀

及ビ大船一隻ニ人多ク取乘リ伊豆ノ下田ヨリ渡航レハ文島ニ至リ民家ヲ燒レ末代伊豆國ノ

内タルヘキ由申付テ歸國レ早雲ヘ此事言上ス早雲喜悅斜ナラスハ文島見出レタル賞ニ伊豆

下田郷ヲ知明ニ下サレテ朝比奈ガ子孫下田ヲ知行ス此島ヨリ北條五代ヘ毎年貢納ヲ

ノ一ハ北條氏政ニ御尋アリ乃此島ニ渡リタル板部岡江雪入道上洛レテ委細ニ言上レテ曰ク
 御八丈島ト申スハ日本ニ遠キ故島アリト古ヨリ知人ナキ所ニ北條早雲宗瑞ノ時伊豆國賀茂
 ノ任人朝比奈六郎知明ト申者南海中邊ニ島アリト云事ヲ聞テ大船ヲ造リ彼島ニ着テ島ノ由
 來入問ノ初ヲ尋ネケレモ知者ナレ唐土南蠻ノ内カト思ヘハ朝ハ日本ニ通レ昔天人此島ニ降
 テヨリ入アリト語ル之ヲ以テ之ヲ思ヘバ女ノ姿天女ノ如ク色白ク膚ニシテ細事人問ノ
 業トハ見エス椿男ハ何レノ代ヨリ此島ニ住ミテ子孫多キニヤト問ヘバソレハ近キ比ト昔ヘ
 タリ云々カクテ爾百匹ヲ取リテ歸リ宗瑞ニカクテ語リテヨリ此島始テ世ニ知ラレ北條家ノ
 所領トナル云々ト〇知明渡島以來北條氏ヨリ役入ヲ渡航セシメ貢納ヲ納メレム其後恒例ト
 ナリテ徳川氏ノ代トナリテモ豆州ノ代官置テ所ノ大島ノ手代毎年一度渡島レ明應七年
 仕置申付ケ入別帳并ニ流入帳ナド取リ歸リレモ寛文十年伊奈氏ノ時之ヲ止ム

北條氏ノ代官長戸路七郎左衛門眞敷渡航シ末吉村ニ住ス永正中菊池右
 馬助武信之二代ル武信死シテ長戸路十兵衛眞隆又之二代ル此時北條氏
 ハ末吉村ト青ヶ島ヲ領シ與山氏ハ大賀郷ト小島ヲ管シ中郷ハ相川三浦
 氏ニ隸セルヲ以テ紛争常ニ絶エズ永正十一年北條氏ノ哨兵與山氏ノ貢
 船ヲ襲ヒ代官與山忠弘ヲ擒ニス十二年四月與山三浦兩氏兵船三艘ヲ以
 テ長戸路眞隆ヲ攻ム五月北條氏ノ家臣駿河國圓明ナル者兵船十二隻ヲ
 率テ眞隆ヲ援フニ會シ與山三浦兩氏ノ兵敗走シ全島北條氏ニ歸ス大永
 七年北條氏ノ代官長戸路七郎左衛門尉眞定眞隆ノ子來航シ尋テ其子七郎次

郎眞純之二代ル享祿元年中村又次郎代官トナリテ來航シ大里原ニ陣屋
 ヲ設ケテ住ス爾來天正元年曾根孫兵衛同七年中村伊賀同十三年由井彦
 次郎同十六年與山繼殿助等相次テ代官タリ之ヨリ先北條氏政板部岡江
 雪ヲ渡航セシメテ島情ヲ視察セシメシ事アリ

〇北條五代記ニ曰ク北條氏岡江
 雪ハ伊豆下田ノ住人ニテ島々ノ事ヲ能ク知ル故ナリ派風ニ帆ヲ上ケテ島ニ至ルニ女ハ色白
 ヲ髪黒クレテ長ク髪容比ナク心ヤマイトヤサレ上々ノ船ヲ重ネ着テ立居浪舞悠々タリ世間
 ノ女ハ紅粉ヲ塗リ翠黛ヲ飾リ媚ルト雖此島ノ習ヒニテ生レ付ノ姿ノマ、ニテ粧点スルノ十
 レ女ノ業トシテ爾ノ織ルノ日夜暇ナシナル程ニ國地ノ土産トテ珍キ草紙ヲ與ヘケレバ何日
 リモ之ヲ重寶トス江雪島ニテ昨日今日ト通行ク程ニ數月ヲ送り南風ノ時ヲ得テ船帆ヲ解キ
 歸國レテ島ノ事トモヲ氏康父子ニ言上スト此時伊豆妻浦村ノ村田カ兵衛ト云士モ江雪ニ歸
 テ渡島セレ一五代記及眞書太閤記ニ委レ就テ見ル可レ岡江雪渡島ニ際レ氏政一ノ印章ヲ渡
 サル表ニ東壁畫封裏ニ龍泉美記ノ字ヲ刻ス明治維新ノ前マテハ貢納ニハ此印章ヲ持レタリ
 存下ス

天正十八年北條氏亡後數年ノ間ハ島吏ナク貢納中絶セシモ慶長
 七年徳川氏北條ノ旧臣與山彌九郎前代官繼殿助ノ子ヲ以テ島代官トナス島民之ヲ
 御奉行ト呼ブ其後數年ノ間代官ヲ置カズシテ島ノ支配ヲ地士菊池左近
 二命ス之ヲ渡海役ト云フ左近上書シテ船ヲ造リ大ニ貿易ヲ獎勵ス又官
 船二隻ヲ造リ隔年ニ貢納ヲ納ムルニ定ム元和六年幕臣今宮惣左衛門
 芝山小兵衛佐野平兵衛等渡航シテ諸般ノ制度ヲ定メ在島三年ニシテ歸

ル同八年ヨリ小宮山八兵衛代官ト爲ル寛永二年ヨリ豊島作左衛門同五年ヨリ豊島作十郎忠松作左衛門ノ子等交代相次グ忠松貢絹ノ長ヲ變更シ一端ヲ三丈二尺ト爲ス島氏苛酷ト稱ス忠松洋中ニテ四正保二年ヨリ谷庄兵衛勝次寛文七年ヨリ谷彌五左衛門勝次ノ子同九年ヨリ伊奈兵右衛門代官タリ從來貢絹一定セズシテ島吏ノ寛嚴ニヨリ増減アリタルヲ以テ十年檢田シテ黄紬六百廿端ト定ム爾來數田檢田ノ事之ヲ略ス此時海路危險ニシテ數破船ノ患アルヲ以テ代官ノ渡島ヲ廢シ手代上野次右衛門ヲ派シテ島ヲ管セシメ爾後恒例ト爲ス天和三年ヨリ竹内三郎兵衛貞享四年ヨリ五味小左衛門元禄八年ヨリ設樂喜兵衛同十三年ヨリ小長谷勘右衛門寶永七年ヨリ小林又左衛門正徳四年ヨリ河原清兵衛等相次グ此時更ニ手代ノ在島ヲ廢シ地役人神職ニ島政ヲ委ス爾後ノ代官ハ享保八年ヨリ日野小左衛門十一年ヨリ山田治右衛門十四年ヨリ齋藤喜六郎寛延元年ヨリ大屋木工之助二年ヨリ山本平八郎寶曆九年ヨリ伊奈半右衛門明和五年ヨリ江川太郎左衛門寛政七年ヨリ三河口太忠十年ヨリ萩原彌五兵衛文化五年ヨリ龍川小右衛門七年ヨリ榊原小兵衛八年ヨリ鈴木傳一郎十一年ヨリ杉庄兵衛

文政八年ヨリ村本兵五郎十一年ヨリ田口五郎左衛門天保三年ヨリ羽倉外記十一年ヨリ江川英龍安政二年ヨリ江川英敏文久二年ヨリ江川英武等ナリ明治革新ニ際シ代官廢セラレ伊豆相模知府事ノ所管トナリ尋テ明治二年六月韭山縣ニ隸シ四年十一月足柄縣ニ屬シ九年四月静岡縣ニ轉シ十一年一月更ニ東京府ノ所轄ト爲ル

祥異

- 長享元年十一月十三日夜噴火ス
- 永正十五年正月九日ヨリ西山大ニ噴火シ數年止マヌ或ハ傳フ當時西山噴出スト○永正中地志云山ヲナス山ト爲ル今此山ヲハ文雷士ト云フト
- 大永二年ヨリ西山噴火シ山麓砂石ヲ降ラス同三年止ム
- 慶長九年十二月十六日海嘯ニテ大賀躰三振二村ノ民家流没ス
- 慶長十年十二月十五日西山噴火シ突然高山ト爲ル
- 慶安十年噴火ス
- 古今著聞集ニ曰ク承安元年七月八日伊豆國奥ノ島ノ濱ニ船一艘ツキタリケリ島人ドモ難風ニ吹寄セラレタル船ヲト思ヒテ行向ヒテ見ルニ

陸路ヨリ七八段バカリ隔テ、船ヲトメ鬼繩ヲ下シテ海底ノ石ニ四方
ヲ繫ギテ彼、鬼八人船ヨリ降りテ海ニ入りシバシ有リテ岸ニ上リ又島人
粟酒ヲタビケレバ飲ミ食ヒケル一馬ノ如シ鬼ハ物言フナシ其形身ハ
九尺計ニテ髪ハ夜叉ノ如シ身ノ色赤黒ク眼圓クシテ猿ノ目ノ如シ皆裸
ナリ身ニ毛生ヒズ蒲ヲクミテ腰ニ巻キタリ身ニハ襟々ノ物ノカタヲ彫
入タリ各六七尺計ナル杖ヲ持タリ島人ノ中ニ弓矢持タルモノ有リケリ
鬼乞ヒケルニ島人惜ミケレバ鬼トキヲツクリテ杖ヲ持テ先弓持タルヲ
打殺シ又凡打タル、者九人ノ中五人ハ死ヌ四人ハ手ヲ負ヒナガラ生キ
タリケリ其後鬼脇ヨリ火ヲ出シケリ島人皆殺サレナズト思ヒテ神物
ノ弓矢ヲ申出シテ鬼ノモトヘ向ヒタリケレバ鬼海ニ入テ底ヨリ船ノモ
トニ至リテ乗リ又乃風ニ向ヒテ走り去リ又同十月十四日國解ヲ書キテ
落シタリケル幣ヲ俱シテ國司ニ奉リタリケリ件ノ幣ハ蓮花王院ノ寶藏
ニ藏メラレケルトカヤト此事百練抄ニ見ユ是レ西南ノ蠻人ナル可シ

雜事

增傳云フ往昔秦ノ始皇徐福ヲシテ童男童女千人ヲ率テ東海ニ就シテ不

死ノ藥ヲ求メシム於此孝靈天皇七十二年徐福來朝セシモ竟ニ其藥ヲ得
ズ乃誅ヲ恐レテ歸ラズ紀州熊野ニ住ミ童男童女ヲ本島及青ガ島ニ配置
セリト蓋附會ノ説ナラム

增島民傳云フ往昔海淵ニテ怒濤全島ヲ凌駕シ人種全ク絶ユ獨妊婦アリ
艦ヲ抱テ大賀郷川口洞ニ留マリ僅ニ死ヲ免レ尋テ男子ヲ生ム後母子私
通シテ子ヲ生ム爾來枝族蕃殖スト後人之ヲ種婆ト呼フ今大賀郷舊峯ニ
其墳墓アリ其他噴火ニテ蒼海桑田ノ變遷アリ又海淵ニテ生類殆ド絶テ
僅ニ存セシ事アリタリト云フ

增寛正四年正月痘瘡行ハレテ全島死スル者六百余人アリタリ長享元年
噴火ニテ焼死スル者多シ永正二年凶荒ニテ餓死スル者少ナカラス
此時島民
饑饉ニ迫
リテ野牛ヲ
食フ 明和五年饑饉死者四百余人其他噴火凶荒等ノ災害ヲ被リシ
一數次ナル可レトモ記録散逸詳ニ知リ難シ

增凶荒海淵等ニテ官ヨリ救助ヲ受ケタルハ元祿三年ヨリ明和三年ニ至
ル七十九年間ニ玄米合計六千三百八十六石四斗六升餘金千百六拾參兩
二分ト永四十四文ナリ明和五年代官江川氏金一千兩ヲ投ジテ救助ノ資

金トナシ毎年利子金一百五十兩ヲ以テ米穀ヲ購入シテ島地ニ輸送シ置
年ニハ之ヲ蓄ヘ凶作ニハ窮民扶助ニ充ルルニ定ム
○假屋橋ト云處ニ島倉ハ
米穀ヲ貯藏シ凶年ニハ
之ヲ出シテ窮
民ニ貸與ス

○此島ニ往昔上ノカミ下ノカミト云アリテ兩加美ト云ヒタリ是レハ二
人ノ女ニテ七カウモノト云織物ヲ織リタル由云傳フ此女ハ天人ノ裔ナ
リト云リ按スルニ三宅記ニ三島明神此島ニイナバエノ后ヲ置キ給フ
ヲ載ス天人ト云ルハ即是レナラム乎海島圖記ニハ兩加美ト云ハ大永二
年後北條氏此島ヨリ女子二人ヲ召シ寄セ其他美女二人ヲ撰ヒテ大賀躰
ノ内兩所ニ宅地ヲ構ヘテ住セシメ田畠ヲ附シタリ後此事止ミテ右ノ田
畠ハ租地トナシ下畠二十二段ニテ上絀十一端ヲ納メ來ル云々トアリ
○官船二隻アリ朝日丸夕日丸ト呼ブ各長十三步一尺五寸廣三歩二尺五
寸四百五十石積ナリ○假屋橋六百石積七百
石積ノ二隻トナス是レハ官費ニテ造リ十年毎ニ改造ス
船頭水手二十人之ニ乗ル毎歲一回東都ニ航シ貢物ヲ進獻シ島ノ諸用ヲ
辨ス通例三四月ノ候東都ニ渡航シ晚秋順風ヲ待テ歸島ス○實船出帆ノ際
狀況伊豆日記
ニ委レ曰ク今日ヨリナレバトテ貢物積ム船モ商人ノ船モトモニオロス概取船子使船モノ
マナ都テ六十人乗リタリ其親類友ダチ皆々八重根ノ岸ニ出テ、ナゴリヲ惜ム又見物ノ人モ

多ク出テサテ船ヲ出ダス日ハ昔ヨリノナラハレニテ思ヒ々々ニ變ヒ續リ女帯ハ縁方漸ク
ゴキニテ遠ク來ルモ其儘ニ務ヲカ、テ昔キ日笠ヲサス小女ハ加賀カサニフタリ花ツケテカ
アル其オモムキ國地ノ祭見ルコ、テアスルカヲ願ヒキ、ノヲガ概取船子ノ年暮ニ行キカフ
モノダニ心ヲイタムト爾テニマシテテマ、ノ國へ出ルモノ又長ク國地ニト、マクテ行
クモノ、ナゴリ社思ヒヤラレ行ク者ハ扇ヲ持テテモノ方ニ居リ見送ル者ハ岸ノ邊ノ
サカレキ中ヲ傳ヘ下リテ程近ケレバモノ言ヒカハレテトスルヲナニスハ帆ヲ上テトイハバ
船ニハ扇ヲアゲテサレ船ヲ岸ニハ令死モ行クモノ、如ク岸ヲカサリニ
泣キ叫ブモノトワリナルカナイトアハレニ物戀シ皆人涙ヲ催レヌト

○目下每年數回
滿船來渡シテ往時ニ比スレバマ、便ナリ

○近世代官ノ渡島セシハ寛政八年春三河口太忠幕府ノ命ヲ奉シテ手附
百々彦一郎及手代十二人暨正四人ヲ率テ來航シ法例貢納等ノ制度ヲ定
メテ同年十二月江戸ニ歸ル伊豆日記一名七三卷ハ當時ノ紀行ナリ伊豆日記
ニ末吉村
吉之五又七三卷三條村喜八ノ女ニ
至孝ヲ賞レテ公職ヨリ給米アリレテ
ヲ載ス文政十年六月村本兵五郎渡島視察
ヲナス天保九年羽倉外記渡航ス南汎錄ハ此時ノ著ナリ弘化三年五月江
川英龍渡島視察ヲナス

○田幕時代ニアリテハ賞罰一定ノ規律ナクシテ島吏任意ノ處置ヲナシ
タリ故ニ罪ナクシテ罰セラル、アリ重罪ヲ犯シテモ許サル、アリ流人
ノ如キハ手足ヲ縛シテ山野ニ棄テ絶食死ニ至ラシムルアリ又小島ニ連

放セラレテ生ナカラ土中ニ埋没セラル、者アリタリト云フ其慘聞クニ
堪ヘズ○此島ニテハ賊物ニ向テ織ヲ忌ム故死罪人ヲ斬ラス高山ヨリ突
落シテ殺ス流人惡事ヲ爲ス時ハ之ヲ捕ヘテ官府ニ斬ヘ死罪ナル時ハ之
ヲ海岸ノ高巖ノ上ヨリ眼下ニ突落シテ殺ス其處ヲソコドト呼ヘリ

○明德三年十一月四日暴風ニテ明船前崎浦ニ漂着シテ破壊シ明人三十
一人ハ溺死シ四十六人ハ賊死シ三百八人ハ歸化シテ島民ト爲ル天文十
六年明船後漂着シテ覆没シ溺死スル者多シ寶曆三年南京ノ高船漂着シ
テ破壊ス船員七十一人ハ恙ナキヲ得

○島人長壽ニシテハ九十ノ者ハ少カラス間百歳以上ノモノアリ又病
者少クシテ中風癩病ハ殊ニ希ナリ島中人口万余ノ中盲者ナシ風土病ニ
バクト云アリ之ヲ病ムハ女子ニ多クシテ脚部浮腫シ常ニ倍スルニ至ル
此病小島ニ殊ニ多シ

○從來島ニ醫師ナキヲ以テ病メバ神佛ニ祈リ又爐火ニ向テ背部ヲ暖メ
未汁ヲ煮テ服スルニ過キズ其危篤ナルニ方リテハ親戚知己相集テ叩撫
號泣スルノミ而テ間流人中醫術ヲ知ル者アル時ハ就テ投藥ヲ乞ヒ來レ

リ故ニ流人糊口ニ窮スル者ハ自、醫師ナリト稱シテ藥ヲ與ヘ人命ヲ損ス
ルヲアリタリト云フ近年内地ヨリ醫師ヲ聘シテ開業スルニ至レリ

○本島及屬島ニテハ柱ヨリ白蟻ヲ生シ中心ヲ蝕シテ遂ニ之ヲ折ル
テアリ之ヲ防クニハ柱ヲ銅ニテ包ムナリ又夏ハ赤蝨ト云ル微虫山野ニ
生スルヲ夥シ五雜俎曰山東軍閭有小虫大體如砂礫嚼人疼痛覺之即不可得俗名三季不
在吾國中亦有之俗名沒子蓋島有之也蝨スルニ毒虫ハ即沒子蝨然ニ
因テ生ス島地蝨蛇多ク往々人ヲ害ス又石龍子野蠻多シ

○諸島近年金錢ノ流通アリト雖本島ノミハナホ曰慣ニヨリテ織物ト未
委其他ノ諸品ト交易スルヲ例トシテ金錢ニテ賣買スルヲ極テ希ナリ

○本島物産ノ最タル者ハ織物ニシテ之ヲ東京ニ輸送シテ米麥其他諸品
ト交易ス古來貢物ニモ織物ヲ用井テ今ニ至レリ諸島中米ヲ産スルハ本
島ノミニシテ例年凡六百石内外ヲ收ム其他ノ穀類モ收穫少ナカラス

○島民古來製塩ノ法ヲ知ラス寛政中代官三河口太忠其製法ヲ傳ヘラレ

タリ伊豆日記ニ曰ク此島鹽ヲ燒クヲ知ラズ燒クトナサレワタレニ間ハカリニ土ノ
釜ヲ作り潮ヲ汲入レ鹽日モ々々、火ヲクキ終ニ底ニ黒クカクマリテ鹽トナルヲ待テ
ナトル故ニ薪ハアマトノ牛ニ汗レ人ハ筋骨ノ勞ヲレノマテ得ル所ノ鹽ハ僅ナレバトテ島
中ノ用ニ足ラヌヤガテ鹽ツキヌレバ潮ヲ汲テ朝夕ノ食ヲト、ノフ潮ハ味ニガツレテ食味ヲ

ソコナフヤレドモ滋ナキ故
ニレカス其食思ヒヤラルト

安永三年三月廿九日島吏服部源六山下與總等幕府ノ命ヲ奉シ小笠原
島ヲ巡視セント同行三十一人ニテ朝日丸ニ乘リテ八重根港ヲ解纜シ
針路ヲ異位ニ取リテ進行シ小笠原島ノ屬島島島ニ近キシガ暴風ニ遇ヒ
纜ニ覆没ノ難ヲ免レテ阿波土佐ノ間海中ノ一島ニ漂着シ竟ニ使命ヲ果
サレリキ文久二年七月代官江川英武ノ勸誘ニ應シ島民男十五人女十五
人大五五人木挽職一人鍛冶職一人小笠原島ニ渡航ス之ヲ島民同島移住
ノ嚆矢トス目下同島ノ住民ハ本島ヨリ移住セシ者尤多キニ居ル七月江川
英武ヨリ勸誘ノ書面ニ曰ク此ハ丈島ヨリ凡百八十里己ノ方ニ當リ小笠原島ト申島此度御開
ニ相成候ニ付ハ丈島ヨリ引移可取計旨被仰出候間男十五人女十五人何レモ夫婦者ニテ小笠
原島ヘ引移候者相撰可申立其額ニ預リ候者ハ御手當トシテ別紙書付ノ通人毎ニ被下之被
島ヘ相渡候上田島切開キ耕作ノ米麥其他多分ニ相成反物織立モ出来候迄ハ上ヨリ米麥味噌
醬油其外食物ハ勿論居小屋御仕キセ迄モ被下置御方之次第ニヨリ候テハ御庭美等モ被下其
上島人ノ開祖ト相成候マノ代ヨリハ神代ノ人ト被敬可申道理ニツキ冥加之程難有相辨ヘ人
物宜敷者ヲ相撰可申流人等ハ此内ヘ難加學嫁ヲ背ヒ候テハ幕ノ禁候ノ實者アリモ人物宜
敷候ハ、兼テ夫婦ニ相成候ノ望モ候ハ、思ノ通り添セ遣レ可申若男子ヲ連テ引移度者ハ妻
トス可キ女子ヲ撰ム可キ女子ヲ連テ引移度者亦夫トス可キ男子ヲ可召連候大工左官鍛冶
職等相心得候者十人出候トシテ此度召連可申候間人物相撰可申立尤一日ノ御手當何程頂戴

致度我聞取レ可申立候 金五兩、松坂織男物一反、松坂織女物一反、白
河内木綿一反、小倉帯一筋、移民男女子供違一人別ニ書面ノ遺被下之

○里談ノ一二ヲ記サバ

「吉野ノ山ヲ雪カト見レバ雪ニハアヲテ花ノフキキヨ
「此寺立タ大エメガヘタテモリソヨ雨ノ下ニタツキリ、ト」

○又

「ヨイト、シヨメアシヤ、カシカミソウデ、月モテルワナ、ヒラ、ト是レハ
樵夫山ヨリ歸ル時ナドニ講フ」

「ワリヤナ、ウタウズニ、此、春ヤマデ、ワガナ、心ノハレルヤウニ」
(是レハ桑葉ヲ摘ム時講フ)

○一村ニ一人宛龜トヲ爲ス者アリト部殿ト云神祭ニ四方ヲ射ル時ノ祝
辭ニ云

「弓ニチウ、カタクニルラ、ダイチノ底マデ、アウソシバ」

島地梅樹ナキヲ以テ島氏梅霜ヲ知ラズ 從來島民痘瘡ヲ病マズト傳
ヘタルハ妄説ナリ 曰幕府ノ時本島ノ官給貢額ヲ江戸ヘ輸送スルニ際
シ先伊豆白濱神社ニ島産ノ米ヲ献スル例アリタリ近世此事ナシ 往昔

外人ハ本島ヲ女護島、女國、女子郷、女人國ナド稱シタリシガ今ナホ女子ノ
數男子ヨリ多シ 民家ハ不潔ニシテ塵埃堆積シ衣服ハ襤褸ニシテ異具
鼻ヲ銜ク道路狹隘ニシテ汚泥牛糞ニ混シ雨後ハ臭氣蒸發シテ嘔吐セン
トス 從來國地ヨリ本島へ渡航スルニ際シ舟子ハ丈ト云フ忌ミテ我物
ト呼ブ其故ヲ知ラス 島民蠟燭及鮫ノ脂ヲ燈油トナス 毎戸牛數頭ヲ
畜テ耕作ニ用ル又木材薪炭ヲ運搬セシム
○島中井ナケレハ水源ニ乏カラズ 大賀郷ニ爲朝鬼^{アサノキ}剉石矢鐵石アリ矢
鐵石ノ凹處ニ水滲ス

村里

○全島ヲ分チテ大賀郷、三根、末吉、中、郷、控立ノ五村落トナス

○大賀郷村ハ百成ノ方ニ在リ土地廣濶ニシテ田圃多シ[○]東西ニ山巒聳
立シ南ハ海ニ瀕シテハ皇根港ヲ據シ北ハ平曠ニシテ三根村ニ接ス島
中、尤海陸ノ利ヲ占ム是レ一島ノ首村ナリ<sup>村内ニ大里ヶ原、岡里、赤間里、下間澤
東里、向里、福橋、金土川、神根、川、新里、新
道、榑木、原下、小坂等ノ小地名アリ</sup>

○本村ニ島役所ヲ置キ本島及附屬小島青ヶ島ノ公務ヲ處理ス

○明治三十三年四月一日本村ニハ丈島々廢ヲ置キハ丈島小島青ヶ島
及鳥島ヲ管ス

○村名曰ト大岡郷ニ作ル享保中現稱ニ更ム

○村道三十二町五十間^{本村ヨリ控立へ越用水路長千七百五十間}

○三根村ハ子丑ノ方海涯ニアリ地勢平坦ニシテ水利宜ク海岸ハ船ヲ寄
スルニ便ナリ[○]東方ニ三原山盤亘シ西位ニ西山峭立ス南ハ大賀郷ニ
接シ北ニ神湊ノ小島アリ<sup>村内ニ稻葉、川向、矢崎、與治、
川、平、新島、新田等地名アリ</sup>

○田、三峯村ニ作ル享保中ヨリ今ノ字ニ更ム往昔大賀郷村ト一村ナリ
永正大永中分離ス

○本村海濱ニハ丈島西山ト神居碑アリ天保甲午、年羽倉外記建ル所ナ
リ<sup>島俗元來手石ニ山ノ間ヲ海神稱止スル處トナシ神止山ト云フ祭事セ
民中島與一等其地ノ樹木ヲ伐採シ壘開シテ黍田ト爲ス島民其惡神ニ
レテ之ヲ代官羽倉氏ニ許フ羽倉氏乃別ニ西山ノ佳
處ヲトシ海神ヲ鎮祭レ島民ヲ慰諭レテ此碑ヲ建ツ</sup>

○村道一里二十九町十四間^{龍ト云}用水路二十町五十八間

○末吉村ハ寅卯ノ方ニ在リ[○]西南北ノ三面峯巒重疊シテ人家其間ニ點
在シ東方海ニ瀕スレハ海崖險阻ニシテ船ヲ寄スル能ハズ島中第一ノ

僻境ナリ村内ニ尾越、官裏、官ヶ路、壺ヶ原、神子ノ尾ノ五小部落アリテ各山ニ竹ノ漢ヲ祀
ニ行クニ境改テ超エ
ナルカラヤルアリ

○**増村道七十六町一間一尺** 延四用水路長十八町 此村旧清水ニ至レカリレガ書
用水路ヲ開鑿シ桑屋洞泉ヲ引キ村民ヲレテ為テ醫セシム嘉永六年ニ
月起工安政六年十一月工事竣成シ人夫一千六百二十人ヲ使用シタリ

○中、**郷村ハ巳午ノ方ニ位シテ末吉** 櫻立ニ村ノ間ニアル故名ク **増東方海**
ニ面シ南方櫻立村ニ接シ西北ニ三原山、蟠踞ス土地高燥ナレ水利用
ク水田多クシテ地味稍肥饒ナリ村民蠶業ニ従事スル者多ク織物ハ全

島ニ冠タリ 村内ニ向里、音ヶ澤、熱田原、藍ヶ里、假舎、尾越ヶ穴、上浦等ノ小地
名アリ村東潮間浦ハ長十町許ノ砂浜ニシテ釣漁ニ便ナリ

○**増村道三十六町三十一間** 用水路十八町余
○**櫻立村ハ午未ノ方ニ在テ高燥ナリ** 増西北ニ三原山ヲ負ヒ東南海ニ面
ス海崖險絶ニシテ漁場ナキヲ以テ村民専、農桑ニ従事ス支村ヲ湯郷名

ト云フ半里許山中ニ在リ 高村内ニ藤六里、康政ヶ里、中平妻里等
小地名アリ海岸數所ニ温泉涌出ス

○**増モト海立村ニ作ル海崖** 壁立セルヨリ起レリト云
○**増村道三十二町廿四間** 用水路二十町余

〔反列〕

○**田五十七町九段六畝八歩** 畑一百三十二町三段五畝八歩 (五、村ノ總
額ナリ)

○**田反列四十八町一及** 〇廿歩、畑四百三町四反二畝十三歩 其他不詳

〔租稅〕

○**黄紬六百三十端** 二分五厘 内下端外ニ口紬三十九端

是レハ本島及隸屬二島分ノ上納ナリ桑葉、漆、山茶實、鱧脯二千疋等貢
物ノ代料ハ此内ニアリ貞享中迄ハ右、外ニ兩加美ノ分黄紬十一端ヲ
納メタリ

○**増後北條氏以來本島貢額ノ法一定セサルガ如ク** 徳川幕府トナリテモ
島代官ノ寛嚴ニヨリテ増減アリタルヲ以テ寛文十年代官伊奈兵右衛
門田圃ヲ丈量シテ本島及隸屬二島ノ貢納黄紬六百廿端ト定メ田畑何
畔疇ニツキ何尺相當トナス享保七年河原清兵衛檢田シテ三島ノ田畑
屋敷總反列三百二十五町九反八畝歩 内六十町七反二畝歩田方二百ノ貢紬

六百三十五端半ト段ム其後元文三年、安永中、天明元年等ノ修正アリテ
寛政五年更ニ檢田シテ新墾田畑八十二町九反歩ノ貢納八十六端八分
六厘ヲ増徴スルトトナス天保十一年書上帳ニ貢納七
百四反九分七厘五毛トアリ明治革新後ノ地租ハ
次ニ記ス

○明治十年統計ニヨルニ本島及隸屬二島ノ地租ハ左ノ如シ

黄納七百十三反二毛古田一町、快ニツキ、黄納二反、古知一町、快ニツキ、同一反
五分、新田、新開田、加成、新加等ハ一町、快ニツキ、各一反、先

内

黄納六百四十四端九分八厘四毛 八丈島分

内百七十七反四分二五八大賀野村分、百十八反八分六二八三根村分、百〇二反〇八
四八末吉村分、百四十九反七分三四八中、野村分、百〇三反八分七九八、立村分、

同六十端五分一ノ八毛 小島分

同七反五分 青ヶ島冥加納(但貢納未定)

○明治三十二年統計ニヨレハ左ノ如シ

黄納九十八端、糸合織百三十端、金納參拾壹圓五拾七錢壹厘(本島及

屬島二島ノ總額ナリ但糸織一端ヲ以テ黄納五端ニ換フ)

内

田租上黄納三十端、糸織二十端、金納五圓四十五錢五厘
畑租上黄納六十八端、糸織百〇五端、金納貳拾四圓七拾壹錢四厘
山林原野雜種地租糸織五端、金納壹圓四拾錢貳厘

〔戸口〕

○戸六百二十九外二十戸、浮田家、
十二人、浮田家、
一百五人、流人、(八丈一島分) 口四千七百七十七男二千二百五十九、
女二千五百十八、
外二百

○現住戸數一千六百十三、本籍人員九千九百七十四、内士族五人男一人、
女一人、
平民九千九百六十九人、
男四千八百七十一人、
女五千〇九十八人、(本島小島青ヶ島ノ合計ナ
リ明治三十年十二月末日現在)

○元祿十四年記録ニハ八丈小島青ヶ島ノ人口合計三千三百三十四、享
保中七島圖ニハ八丈島戸四百九十四、口二千四十。安永三年大概帳ニハ
八丈島戸六百二十九、口四千九百二十七。天保十一年大概帳ニ同戸九百
四十五、隱居二十一、口六千九百九十二トアリ

〔島吏〕

○地役人一人、名主五人一村浦役人五人、
但浦役人ハ
名主兼務ス

(學校)

○尋常小學校五、各村之ヲ置ケ

○尋常小學校就學者六百六十八人男四百九十九人 女一百六十九人 (明治三十一年十二月末日朝)

(郵便)

○郵便局一、大賀鄉村ニ之ヲ置ケ切手費下所六

(船艇)

○漁船十九隻、廻船六隻、漁船四十七隻

山 川 原野池 泉澤布

○西山ハ島ノ乾位ニ屹峙セル孤峯ニシテ大賀郷三根二村ニ跨ル高海面ヲ拔ク一二千八百四十六尺、周回九千七百間ニ亘リテ殆全島三分一二居ル古來噴火セルヲ以テ滿山燒砂ニシテ山腹ヨリ上ハ樹木生育セズ山嶺噴坑アリ○火坑徑五町、周回十四五町、深凡廿仞、坑底水積ス高小坑アリ、深クシテ其形如坑邊、焦炭立、攀テ難シ、山形駿州富士山ニ彷彿タルヲ以テ八丈富士氏呼ブ又龍峯香爐山等ノ稱アリ、登路二里余三根村ヨリ上ル○山頭ヨリ秋晴

ニハ遙ニ駿ノ富士山豆相ノ諸山ヲ望ム可シ山腹ヨリ上ヲ盡シテ牧場トシ牛ヲ收ス山中野牛多ク採種ノ密ヲナス、土產新參觀

○西山ノ麓ニ一峯突起スルヲ神止山ト云フ元衆手石ニ山ハ其左右ニアル小丘ナリ

○三原山ハ島ノ中央ニ蟠踞セル高山ナリ山脈東西ニ連亘シ南北ニ起伏シテ五村ノ地皆其山脚ニアリ往昔噴火セルヲ以テ山頭ニ大小ノ火坑存ス坑邊樹木鬱蒼タリ高、西山ニ次ク、此山登路ナシ○山頂平曠ノ地十町許、此山脈ニ屬スル諸峯頗多シ

○東山ハ三原山脈ニシテ三根村ニ屬ス○西山ト相對ス

○七九嶺ハ亦三原山脈ノ最高峯ニシテ末吉村ニ屬ス航客常ニ望標トス

○賀茂川ハ源ヲ大賀鄉村賀茂山涌水ガ瀨ニ發シ北流三根村ヲ經テ海ニ入ル長一里余幅六七尺○飲料トス

○大里川ハ大賀鄉村桑吾ケ澤ニアル清泉ナリ○飲料トス

○川船川ハ大賀鄉村堂ケ澤ヨリ涌出ス○飲用トシ又田ニ灌溉ス

○安川ハ中、鄉村蘭亭山ノ麓安川山ヨリ發シ南流里餘厚差川ヲ合セテ海

ニ入ル幅四尺余○飲料トシ又灌溉ニ供ス

○尚三根村ニ南澤末吉村ニ社川瀬戸川鳩居川中、郷村ニ堤ガ澤、榎立村ニ積田川、樋川、成振澤、津川、砥折川、手石川等ノ溪流アリ

○登龍ガ原六日ガ原、横摩ケ原等ノ原野アリ

○宮路ガ池、おぶたもガ池ノ二池ハ三原山頂ニアリ、宮路ガ池ハ縦七町横三町許、おぶたもガ池ハ縦三町横一町半、水常ニ滯ス共ニ噴火坑ナリ

○白瀧ハ榎立村ヨリ十町山中ニアリ、三原山頂ノ池水ニ發源シテ二層ニ飛下ス○上高ハ九丈、下十四五丈、幅ハ尺村民飲料トナシ又水田ニ灌溉ス

○瀧下スル一廿七八町ニシテ水砂礫ニ浸入洶濁ス

○賀茂川、湫ハ三根村ニ在リテ四層ニ飛下ス、四層高五間幅四尺、三層高八間幅三間、二層高十六間幅四間、初層高三間幅一間、又同村ニ成澤、湫アリ、高十六間幅六間

○名古湫ハ末吉村海崖ニ在リテ高八十二間幅十八間、頗壯觀ナリ、又同村ニ太田、湫、高六十三間幅一間、卷瀧、湫、高三十五間幅四間、其他數流ノ瀑布アリ、皆海峽絶壁ヨリ蒼海ニ直下ス

○榎立村コマケ浦ト云處ノ海岸ニ温泉湧出ス、滿潮ニハ潮水泉ヲ浸スヲ以テ退潮ニ浴ス可シ、濕瘴疥癩ヲ治スト云フ、温度百九十度、其他海濱數所ニ温泉湧出ス、レモ皆潮水ニ混ス、往昔ハ伊川野ト云處ニ温泉湧出シタレモ近年絶ユ

○三原山中、成振谷ト云處ヨリ温泉湧出ス、其泉脈ハ頗深キヲ以テ島民國ヲ數ケテ蒸氣ニ浴ス、蒸氣濃厚ナルヲ以テ通身怒温暖ヲ覺エテ、湯浴ニ異ナラス、濕瘴疥癩、風疹等ニ効アリ

○神湫ハ三根村ニ屬シテ、灣口北ニ向ヘリ、港内巖壁險絶、波潮險惡ナルヲ以テ寄港ノ船ハ直ニ岸上ニ引上ケ、須臾モ繫泊スルヲ得ス、灣口險絶アリトロウ根ト云フ、海岸ヨリ險路ヲ上ルヲ十二町ニシテ三根村聚落ニ至ル、西隣ニ垂戸、東北ニ底下ト云海濱アリ

○八重根港ハ大賀郷村ニ屬シテ、西南ニ向ヘリ、灣内長三十間幅十間許、兩岸石壁對峙ス、灣口ニ巨巖アリ、馬鞍ト呼ブ、嘉永中、浮田秀典、通稱半平、浮田修

二十

温泉

埠頭

○榎立村コマケ浦ト云處ノ海岸ニ温泉湧出ス、滿潮ニハ潮水泉ヲ浸スヲ以テ退潮ニ浴ス可シ、濕瘴疥癩ヲ治スト云フ、温度百九十度、其他海濱數所ニ温泉湧出ス、レモ皆潮水ニ混ス、往昔ハ伊川野ト云處ニ温泉湧出シタレモ近年絶ユ

築シテヤ、船ヲ容ル、ニ便ス東北風ヲ避ク可シ南隣六町許ニ前崎ト云
 砂濱アリ寄港ノ船ヲ此ニ引上ク伊豆日記ニ曰ク神渡ハ船ノ出入安ケレバソコニ船
 島ノ浪ノムツカレキ事是レニテ知ル可レバ岸近ク寄セザル船モニツノ港ニ波オドロオ
 フロレキ時ハ待避ヘタル人々ト物言ヒカハレナドレテモ船ハツルカナハア伊豆相模ノア
 フリヘ船ヲ戻レテハルハ、ノ沙路ニ幸キ目見タルカヒモナキナリ之ヲ出戻リト云ト
 ナムヤナハ重葎ノ港ノ西南ニ崎ナタル岸ニ磯ノ如キ巖ノ重ナリツラナリヤマハ船ノ山
 トモ頼可レ船ヲ乗入ルレハ左右ノ岸ヘ復ニ間バカリナラテハ船ヲ入スルナレバカ
 リニモ岸波立テバ居ニ當リテ船ヲ調モテ繫マトノントスレバ其潮居ニテスリ切レテトヤ
 ノ得ズ船ノ岸ヲ引上テ少ナカラストツ岸ハ遠ニ高ケレバ船ヲ上ヨリ置ノ中ヘ板ヒキ波
 レタリ此板常ナラバ何トテ波ルヘキ尺岸ニ着キタルレサニ危キモノモ覺エズヤス、
 タテ波ルイテ岸ノ岸ニモアレ船ハテ、ハ波ノ上ニ繫キテ置テモノトノミ思ヒレニ島ノ岸ハ
 波高ク又時シラズ波ノ湧立事急ナレバヤガテ陸ヘ引上ケオクヤ島ノ要トモ島人多ク引連
 來テ積入タル船ヲ強ラズ取上ケカテ船ニレテハ重葎ヨリ程近ク前崎ノ波ト云處ヘ引テ
 廻スソコハ船引上ル便ヨケレバナリヤレド遠道ナル故積積タル船ハ岸ヘヨラズ云々ト

圖 葎ヶ江ハ中、隣村ノ東南ニアリテ小屋和戸岬東南ニ斗出シテ自、湾形ヲ
 爲ス湾口卯辰ニ向フ北風ヲ避ク可シ湾内ニ巨巖尖立ス之ヲ龍柱ト呼フ

神 祠

圖 隣社 優婆夷神社 寶明神社 ○建婆明神 大賀隣村大里鎮座 優婆夷神社
 祭神 優婆夷命也 寶明神社 祭神 許志伎命ナル可シ

圖 相殿鎮座ニシテ八丈小島青島ノ總鎮守ト稱ス優婆夷神社ハ式内優
 婆夷命神社也 ○建婆明神ハ式内ノ神社也 三宅記ニ三島神五柱ノ后神ヲ五島ニ置給フ
 一ヲ記シテ沖ノ島ニ置給フ后ヲバ「イナバエ」ノ后トシ申ケルトアル是
 ナリ社邊ニ内イナバ外イナバ等ノ地名存ス按スルニ神名「イナバエ
 トアル方正シカル可ク轉訛シテ「ウバイトナリ優婆夷ノ字ヲ借用セル
 ナラム往古西山頂ノ入ニ鎮座セシガ噴火ノ災ニ罹リテ三根村宮、平ニ
 移シ後又現地ニ遷祀スト云フ寶明神社ハ式内許志伎命神社ナル可シ
 大賀隣ノ西方ニ古志伎ノ地名アリ是レ旧址ニシテ後ニ優婆夷神社ニ
 合祀セル者ナル可シ又西山ノ一名ヲ龍峯ト云ハ許志伎ノ神号ヨリ起
 レル稱ナラム三宅記ニ「イナバエ」ノ后ニ添テ五郎ノ王子ヲ置給フ由見
 エタルハ是レナル可ク本社ヲ古寶明神トモ稱シ來レルガ古寶ハ五郎
 ノ轉訛ナラム從來優婆夷神社祭神ヲ天照大神、寶明神社祭神ヲ大山祇
 命ト傳ヘタルハ誤謬ナルヲ論ナシ ○建婆明神ハ天照大神、寶明神ハ大山祇命ヲ
 祭ル建婆明神ノ傳ハ本造ニレテテ女體ナリ坐
 下ニ且那宗廟ト認ル判アリ寶永中管理セレニ殿内ヨリ小俵及金ノ延板ニ神影ヲ彫リテ
 ルモノ金物ノ具足周元通寶、大定通寶、大觀通寶、永樂通寶等ノ鑄錢、水晶ノ五ナド出アケリ

實明神々体ハ唐金ニテ東帯ノ傳ヲ曉ニ鑄テアリ又天長地久國土安穩宗興寺御鎮守木代可有鎮護、未事十一年己未卯月廿日宗廟ト鑄ス共ニ金川宗廟寺遠ト見ニ兩社神位ノ一ヲ保八年神職宮内上京レテ官階ヲ請
クリ此時神職宮内モ數位ニ預レリ○神職與山遠江守、外下社人、占部四人祝三人、加社手七人、宮婦一人、巫女一人、神主代一人、彌宜五人、僧家五人、凡、廿八戸神職以下明祭田二町三反二畝廿步明治七年兩社ヲ辨社ニ列セラル境域樹木鬱蒼頌、幽邃ナリ

境內社四 松尾神社、稻荷神社、十四坪官有地

伊勢宮神宮大 大賀郷村矢崎鎮座祭神天照大神

境內社三 琴平神社、須賀、五十三坪官有地

淺間神社 大賀郷村西山鎮座祭神木花之佐久夜毘賣命ナリト云

西山々上ノ石窟ニ鎮座ス社域十六坪官有地

天神社天 大賀郷村向里鎮座祭神菅原道真ナリト云

社域十八坪官有地

川路神社 大賀郷村東端鎮座祭神大山祇命ナリト云

祠宇ナシ自然石ヲ建テ、祀ル社域廿九坪官有地

見島神社 大賀郷村永ヶ藤鎮座祭神三郎女子ナリト云

社域三坪官有地

伊勢宮 大賀郷村波瀾所鎮座祭神天照大神

社殿ナク自然石ヲ建テ、奉祀ス社域廿坪官有地

稻宮山神社 大賀郷村稻荷山鎮座祭神倉稻魂命ナリト云

社域一千五百五十二坪官有地

八幡宮 三根村川向鎮座祭神不詳云譽田列命

旧祠ナリト云元祿八年霖雨ニテ祠宇流亡享保三年再建ス境域二坪官有地

淺間神社 三根村西山鎮座祭神木花之佐久夜毘賣命ナリト云

社域十七坪官有地

伊勢宮 三根村新島鎮座祭神天照大神ナリト云

社域四百五坪官有地

琴平神社 三根村新島鎮座祭神大物主神ナリト云

旧天狗祠ト云處ニアリシヲ慶應二年遷祀ス社域三十四坪官有地

增 渡神社 ○神明 增 三根村鞍、坂鎮座祭神住吉、大神ナリト云

增 寛永十年創建スト云 社城八十三坪官有地

增 八郎神社 增 三根村外道つゝ澤鎮座祭神源為朝

增 自然石ヲ建テ、祀ル 社城一百七十坪官有地

增 根田原神社 增 三根村根田原鎮座祭神市杵島姫命ナリト云

增 往昔赤羽、池ト云アリシガ今ハ水田トナリ社地其中央ニアリ 社城三十三坪官有地

增 作守神社

增 三根村元象山鎮座祭神倉稻魂命ナリト云

文化中創立ス 社城二百六十坪官有地

增 村社三島神社 ○三島 增 末吉村宮裏鎮座祭神事代主神ナル可シ

增 五百三十坪官有地

增 渡神社 末吉村鎮座、社城八十五坪官有地 增 伊勢宮 ○大神宮、社城一百一十四坪官有地

增 八幡宮 社城一百一十坪官有地 增 飯訪神社 社城六十一坪官有地

增 根内神社 社城二百七十六坪官有地 增 太田神社 社城九十一坪官有地

增 八郎神社 ○八郎 增 中、辨村瀧、澤鎮座祭神源為朝

增 天保十一年石祠ヲ建ツ 社城四百六十坪官有地

增 三島神社 ○三島 增 中、辨村里道鎮座祭神事代主神ナル可シ

增 社城一千一百六十六坪官有地

增 伊勢宮 ○大神宮 增 中、辨村小蓋ヶ谷鎮座祭神天照大神ナリト云

增 社城四百三十九坪官有地

增 三島神社 增 榎立村藤、山鎮座祭神事代主神ナル可シ

增 社城七百五十三坪官有地

增 伊勢宮 榎立村鎮座、社城同之 增 琴平神社 社城十七坪官有地

增 飯訪神社 社城二十坪官有地 ○八幡宮 社城百廿一坪官有地

增 稻荷神社 社城八十六坪官有地

佛 刹 宇 堂

增 本島ノ僧侶ハ古來肉食妻帯シテ子孫相續スルヲ例トス

增 龍峯山宗福寺 增 大賀辨村大里原ニ在リ浄土宗 伊豆下田海善寺末、本尊阿彌陀觀世音勢至

增 寺傳ニ云源為朝ハ丈島ニ住シ七郎三郎長女ヲ娶トシ二子ヲ生マシ

△長ヲ太郎次ヲ次郎ト呼フ次郎生長シテ源爲宗ト名ケ一島ヲ領ス後
香爐山彌陀寺ヲ西山ノ麓ニ創建シ父母ノ冥福ヲ修ス爲宗寺ニ住シ子
孫相承ケ奕世入道宮ト稱ス永享ノ初其裔雲加ノ孫ナリト云ノ時西山噴
火シテ堂宇燒亡セルヲ以テ寺ヲ大里原ニ移ス尋テ十二年武州金川宗
興禪寺ニ隸シ禪宗トナリ寺ヲ龍峯山宗福寺ト改稱シ雲加乃瑞翁宗的
ト号ス宗的嘉吉三年永祿中住僧靈譽宗遊ノ時淨土宗トナルト觀源爲朝建器記
文化丙子杉田公
勤記ニ曰ク源爲朝久居八丈有_レ長生子曰爲宗々々生長爲僧暨父冥福建_一寺於西山側
曰香爐山阿彌陀寺_一帶妻食肉且佩刀劍_一家_一以_レ此人爲_二次郎入道宮爲宗禪定門_一按大日本史
爲家爲_二大島次郎其母抱而逃因得_レ脫屣即其人_一家宗二字行体相似彼此恐有_二一誤又一書曰爲
朝子爲家々々子爲宗別爲_二二人_一野乘之言不足取_レ信令_一以_二家_一所_レ記爲_レ本_一子孫相承住持世
爲島長_二至_二永享中_一火燒_二西山_一延及_二彌陀寺_一主僧宗的移_レ寺於_二今處_一大賀野大里原_一時武州金川
有_二美山宗興_一因通_二交易_一奉_二奉島地_一宗的有_レ故遂_レ建_二金川宗興寺_一號曰_二龍峯山宗福寺_一爲_二曹洞禪_一
此_二中興_一家_一以_レ此人爲_二入道宮瑞翁宗的禪定門_一寺今隸_二豆州下田_一海善寺_一爲_二淨土宗_一其改隸
在_二何世_一的不可_レ知自_レ爲_二朝_一至今日_一上下七百年血統相貫綿々不絕寬政中官闈_二八丈_一瑞翁時或
至_レ觀命_一畫_二以_二間地_一壁開_レ爲_二田并_一宅兆_一移_レ他處_一登_レ時家_一亦改_レ寺_一號_二靈之_一兩側出_二二石_一梯_一從_レ而
視_レ之_一充_二以_二種々_一器_一梯_一號_二三面_一并_一殿_一視_レ一_一泓_一砥_一一_一枚_一等_一物_一々_一古_一色_一可_レ愛_レ可_レ飲_レ云_々ト_一此事_一南_一敬_一芬_一言
ニモ見_レユ_一卷_一末_一ニ_一硯_一一面_一并_一柄_一古_一號_一一面_一ノ_一圖_一ヲ_一添_レフ_一此_一古_一器_一今_一存_レス_一ナ_一ハ_一墳_一墓_一塚_一參_一觀_一○海島
風土記ニ曰ク_二旧西山_一ノ_一麓_一ニア_レリ_一香爐山彌陀寺ト號_ス永享中住僧瑞翁宗的寺ヲ大賀野大
里原ニ移_ス其以前六世ニ_レテ_一歷_レ世_一入_レ道_一宮ト稱_レリ_一宗的爲_レ島_一産_一ノ_一嗣_一ヲ_一京_一都_一ノ_一佛_一師_一ニ_一贈_レリ
ヲ阿彌陀及大日ノ像ヲ作_ラレム永享十二年武州金川宗興寺ヲ稱_レテ開祖ト_レ禪宗ニ改_メ

○海雲山長樂寺 中、辨村京言庭ニ在リ淨土宗伊豆下田海善寺
○明徳三年十一月明船前崎浦ニ漂着ス船中ニ僧宗開アリ寺ニ住シテ
世ヲ終フト云今寺ニ宗開父母ノ靈牌存ス福ヲ祖造ニ_レテ_一古_一色_一アリ長一尺二寸幅二十
浮遊檀越ノ貧困ヲ救キ大ニ山野ヲ開墾シテ農桑ヲ獎勵ス島民令ニ至テ其徳ヲ慕フ浮遊
天文十五年ヨリ弘治三年マテ在持ス五世宗遊伊豆下田海善寺
永祿元年來住ス此時淨土ニ改宗セルナラムト伊豆下田海善寺
來請シ歌ヲ錄ス色紙ニ_一枚_一今存ス境外佛堂四字三字本島次ニ別記ス_一寺城一千一百七十
○海雲山長樂寺 中、辨村京言庭ニ在リ淨土宗伊豆下田海善寺

○明徳三年十一月明船前崎浦ニ漂着ス船中ニ僧宗開アリ寺ニ住シテ
世ヲ終フト云今寺ニ宗開父母ノ靈牌存ス福ヲ祖造ニ_レテ_一古_一色_一アリ長一尺二寸幅二十
浮遊檀越ノ貧困ヲ救キ大ニ山野ヲ開墾シテ農桑ヲ獎勵ス島民令ニ至テ其徳ヲ慕フ浮遊
天文十五年ヨリ弘治三年マテ在持ス五世宗遊伊豆下田海善寺
永祿元年來住ス此時淨土ニ改宗セルナラムト伊豆下田海善寺
來請シ歌ヲ錄ス色紙ニ_一枚_一今存ス境外佛堂四字三字本島次ニ別記ス_一寺城一千一百七十
○海雲山長樂寺 中、辨村京言庭ニ在リ淨土宗伊豆下田海善寺

○海雲山長樂寺 中、辨村京言庭ニ在リ淨土宗伊豆下田海善寺

八年也矣歷世傳教奉大士二法雨而潤及四生布三香雲而饒于十界予自委百之冬就津失
能料無得生皆賴神明照佐一安寧治此深蒙島長正成之仁慈各長者之厚愛通都七十一人全
得餘年予居寺半載承通徒師朝暮安慰甚憐故國之人一情意網羅實有同歸之願予胸中素
無文墨序賦不能動神無免惟零級於銘感之心以記德寺之新造山門而垂後耳 皆大清乾
隆十九年歲次甲戌四月建造山門惟望後之同志者樂輸盤脩永遠恒新千秋不壞則後之功德
於無量者也 寶曆四年甲戌三月江南雲間程劍南浙江蒼溪高山懸福建榕城董昌仁暨通都
人東同立南宮人作所ノ山門目下 此寺大賀鄉大里原ニ在リシヲ明治廿
柱二本存スルノ碑額ハ寺ニ載ス

六年現地ニ移轉ス 本尊ノ背面ニ元祿十四年五月十三日法橋 寺域七百十九
民部作ト記ス又殿臺ニ唐作ノ小佛像アリ 坪民有地一畝

○釋迦堂 大賀鄉村揚梅ヶ原ニアリ 同村宗福寺ニ續 屬ス本尊釋迦

○藥師堂 大賀鄉村藥師入ニアリ 同村宗福寺ニ續 屬ス本尊藥師

○古堂也 堂前ニ彌願寺ト刻 元祿中島奉行上野善右衛門再建ス 堂域二百三十二
坪官有地三畝

○觀音堂 三根村尾端ニアリ 大賀鄉村宗福寺ニ續 屬ス本尊觀音五体

○地藏堂 中、郷村中里ニアリ 地本尊 屬ス本尊地藏

○地藏堂 三十五坪官有地

○地藏堂 三十五坪官有地

○地藏堂 三十五坪官有地

墳 墓

源為朝為宗父子ノ墓ハ大賀鄉村宗福寺ニアリ 曰西山ノ麓ニ在リシヲ

寺ト與ニ此ニ移スト云為朝ノ墓ハ其子孫進帛ノ為ニ道器ヲ埋メテ築キ
シ者ナリト云 中外經緯傳ニ曰ク為朝ノ子ヲ次郎為宗ト云父ノ事アリレ時効カリツル
ハ阿彌陀寺ト云リ為宗妻ヲ妻リテ生子マレノ常ニ刀劍ヲ身ニ副テ萬ニ武士ノ氣調ヲ失
ハズ自、島長ノ如クニテ子孫代々同レサマニ其寺ニ住持レテ今ニ遺蹟セリ為宗カ事ヲ家
傳ニ二郎入道官為宗禪定門ト記セリトフカツテ寺未、字ノ頃火災ニ遭ヘル後大里原ト云
處ニ移レテ宗福寺ト改メ為朝ノ墓モ其近所ニ移セルヲ寛政中故アリテ寺ノ後面ニ改移セ
リ其時石標ニヲ編出レタル中ニ兵部トオボレキ者アリケレト折損ネテ定カナラズタ
刀具ノ辨ノ如キモノ一取アリ其外ニハ劍鏡三面現一放磁器十枚バカリアリツルヲ寺ニ載
メ置リ其現ノ裏ニ為朝ノ臣職丸作ト彫テアリトフ其現ノアリケル方ハ為朝ノ掛ナル可
ト令一ツハ為朝ノナル可レ今按フニ宗福寺ヲ移レタル地ヲ大里原ト云ハ為朝琉球ニテ
大里按司トナリ島ニ歸リテモ其居所ノ名ニモ時ケルナゴリニテ其地ヲ大里原
ト呼ビサルロスガニテ宗福寺ヲモ移レタルニヤアラントナホ宗福寺ノ俗名也

○浮田氏墓ハ大賀鄉村外稻葉ト云處ニアリ 區域方二間許ニシテ墓標十
四基アリ中央ニアルハ秀家 中納 他ハ其子秀規及一族ノ墓ナリ 境域二一

老櫻アリ浮田櫻ト呼フ

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

古蹟

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

○源為朝ノ館址ハ大賀郷村横麻ヶ原ノ瀕海ニ在リテ城山ト呼フ空隍

存ス

流竄

○慶長五年關原ノ役戰敗レテ薩州ニ遁ル徳川家

始トナス

○慶長五年關原ノ役戰敗レテ薩州ニ遁ル徳川家

始トナス

○慶長五年關原ノ役戰敗レテ薩州ニ遁ル徳川家

始トナス

○慶長五年關原ノ役戰敗レテ薩州ニ遁ル徳川家

始トナス

○慶長五年關原ノ役戰敗レテ薩州ニ遁ル徳川家

始トナス

○慶長五年關原ノ役戰敗レテ薩州ニ遁ル徳川家

始トナス

○慶長五年關原ノ役戰敗レテ薩州ニ遁ル徳川家

始トナス

○慶長五年關原ノ役戰敗レテ薩州ニ遁ル徳川家

始トナス

○慶長五年關原ノ役戰敗レテ薩州ニ遁ル徳川家

始トナス

○慶長五年關原ノ役戰敗レテ薩州ニ遁ル徳川家

伊豆七島志中

八丈島

二十六

付二住ム者アリ

○官女五人

○慶長十四年十月本島ニ放流セラル○武徳編年集成曰

ク朝廷ノ臣官女ト密契シテ洛中ヲ徘徊シ遊會殆、萬次ヲ亂ル云々死罪一等ヲ宥シテ遠流ニ處ス難波少將宗勝ハ伊豆國、埴婦五人ハ皆髮ヲ斷テ歸服ヲ着セ各奴婢二人ヲ添エ八丈島ニ流シテ一處ニ置クト丙辰紀行ニモ見ユ

○武徳大成記ニハ宗勝流寓ノ事ナレシ官女ヲ伊豆大島八丈島ニ流ストアリ

○渡邊綱貞、林内藏助、菽田主馬

○天和ノ初本島ニ流サル俱ニ越後侯

松平光長ノ家臣ナリ綱貞ハ權三千石ヲ食ミタリ

○流人一百九十余人

○明治二年本島ノ流人恩赦セラレタル者百六十八人アリタリ

人物

○源為朝

○保元ノ亂為朝死一等ヲ減シ大島ニ流サル時二年十八在

島數年狩野茂光置ク所ノ島代官三郎大夫敏定ノ女婿ト爲リ傍ノ諸島ヲ畏服シ後八丈島ヲ略有シテ住ス永萬元年偶海上ニ驚ノ飛ブヲ見テ島アルヲ知り海ニ航スル一晝夜鬼ガ島ニ至リ島民ヲ服從セシム鬼

ガ島ハ即青ケ島ナリ同年琉球國ニ渡ル時二天孫氏徳衰ヘ國中大二亂

ル爲朝一方ノ地ヲ侵掠シ遂ニ大里按司ノ妹ヲ娶リ仁安元年男尊敦ヲ

生マシム居ル一數年尊敦ヲ留メテ復八丈ニ歸ル尊敦長レテ武勇絶倫年十六國入推レテ浦添按司トス時

ニ諸按司皆天孫氏ニ叛テ進臣利勇竟ニ天孫氏ヲ殺レ位ヲ篡フ尊敦乃射テ之ヲ殺ス於此諸按司尊敦ヲ推レテ王位ニ即カレム天孫氏是レナリト云中山世譜ニ曰ク天孫源尊敦父領西八郎爲朝公母大里按司妹南宗乾道元年乙酉爲朝至レ國生二子一而返其子名三暴橫尊敦長爲浦添按司一從國入推戴爲君是年天也ト南宗乾道元年ハ即永萬元年ニ當ル

日ニ甚キヲ以テ狩野茂光朝ニ表シテ之ヲ討ツ嘉應二年四月爲朝屬島

小島ニ於テ自殺ス年三十二按スルニ爲朝討セラレ戦利アラヌ首ヲ京師ニ傳

フ或云安元二年三月自殺スト

○爲朝鬼島ヲ服從セシメ後琉球ニ渡リテ轄ク羈寓シ復八丈ニ歸リ小

島ニ於テ討手ヲ蒙リ自盡セリ遺蹟坪澤ニアリ保元物語ニ爲朝嘉應二

年四月大島ニ於テ自殺シ其首ヲ京師ニ傳フル一アリ糸圖ニハ安元二

年三月六日大島ニテ討ルトアリ保元物語志原本同之島人ノ傳説ニハ

承安三年八月十五日小島ニ於テ自殺スト云リ保元物語糸圖等大島ニ

テ終ルトアレヒ島人ノ傳説ト其遺蹟祠廟等小島ニ在ルト末裔八丈島

ニ存スル等ニヨリテ考ルニ小島ニテ自殺セシ一疑ナカル可シ尚ハ丈
ニ爲朝ノ從者五十餘騎ノ後裔存ス神社考ニ曰ク平氏爲朝ヲ殺スハ能ハスハ丈
アリヤ否ヤ神
明
紀年分殊參觀

○源爲頼源爲家次 源爲朝三郎大夫敏定ノ女婿トナリ三子ヲ生

マシム長ヲ爲頼次ヲ爲家ト云三子ハ女子ナリ爲朝自職スルニ及テ先

爲頼ヲ刺殺ス時二年九爲家ト女子トハ其女抱テ逃ル女子後ニ賀茂重

長ニ嫁スト云フ○保元物語ニ曰ク嘉應二年四月下旬野介茂光爲朝ノ對手ニ向ヒ
タル時爲朝家ノ内ニ走り入り堀子ノ九ツニナルヲ時寄ヲ背カキ切

リ投票ツ五ツ(一本七ツ)ニナル次郎トニツ(一本五ツ)ニナル女子ヲハ其母懷ニ抱テ逃ケレ

ハ力及バズ其後家ニ火ヲカケ取カキ切ルトアリ子ノ名ナレハスルニ由國ニ曰ク子

爲頼源爲朝ノ子 源爲朝ノ子ハ丈ニ住ス子孫奕世入道官ト稱シテ島長タ

○源爲宗源爲朝ノ子 源爲朝ノ子ハ丈ニ住ス子孫奕世入道官ト稱シテ島長タ

リ源爲宗及源爲朝ノ子 源爲朝ノ子ハ丈ニ住ス子孫奕世入道官ト稱シテ島長タ

宗ノ子ナリト中外經傳 俱ニ詳ナラス源爲朝ノ子ハ丈ニ住ス子孫奕世入道官ト稱シテ島長タ

○足利義兼源爲朝ノ子 源爲朝ノ子ハ丈ニ住ス子孫奕世入道官ト稱シテ島長タ

○足利義兼源爲朝ノ子 源爲朝ノ子ハ丈ニ住ス子孫奕世入道官ト稱シテ島長タ

生レタリシヲ義康養テ子ト爲シタリト云フ義兼身長八尺餘膂力人ニ

過ク從四位下ニ命セラレ正治二年春卒ス○難太平記ニ曰ク源爲朝流人ノ間

々ノ處ニ達テ子トナサレム源朝政務ノ時件ノ子義兼ト名乗リテ勇敏勝レタリ朝内

リ當時朝政ニ對シテヤセル宿意ナレト雖彼時思慮深クテ一家ニ名アル者ハ常ニ忌憚

リ給ヘリ其世ニ望ナレ尺伴在トナリ朝政ノ心ヲ休ン云々ト東鑑ニヨルニ義兼ノ妻ハ

北條時政ノ女ナリ源爲朝ノ子ハ義兼ト名乗リテ義兼ト名トアリ

○島氏爲朝ノ子虎政ト云者アリタルヲ傳フ伊豫波嶼三宅島ノ邊ニ

虎政ノ海ト云アリ此處ニテ虎政海ニ投シテ死シタリト云

小島

總説

○一名宇津木島ト云フ

○八丈島ニ隸屬ス小島ハ八丈ヲ大島トシソレニ對シタル橋ナリ

○氣候風俗等八丈島ニ大差ナシ

位置

○八丈島ハ重根港ヨリ西方海里一里余ニアリ

形勢

○東西十六町南北九町余○周四一里三十町廿六間

○峻峯城々四崖險絶平坦ノ地ナシ○兼垣ヲ平ケテ民家ヲ構ヘ山腹ヲ墾シテ陸田トナス全島絶壁ナルヲ以テ棧道ヲ懸崖ニ架シテ往復ス危險想フ可シ中央最高ノ處直立一千八百二十六尺余伊豆日記ニ曰ク小島ハ八面トモ

ナタル巖ノ上ニツケラリニ橋カケ渡レテ往通フ橋邊ニ兼ノ置キ所ナク日毎ニ其カケ橋ヘ船ヲ引上グク渡ルヤヘ目タルメキ足フルヘ左右ヘトリツキナヤクハ、登ルニ島人ノ男ハ重キヲ負ヒ女ハ潮ヲクミテ頭ニ兼キ
○東方海中五町許ニコシ根ト呼フ巖嶮アリ

地質

○全島岩石ナリ

産業

○島民農漁ニ従事スト雖耕地皆山腹險阻ノ處ニアリテ牛カヲ用ルヲ能ハス耕種至難ナルヲ以テ主トシテ漁業ヲナスカ如シ○活生ハ耕テハ丈島ニハ丈ニ比スレハ甚多レ爾者夏ノ候又まぐさト稱スル草ニテ席ヲ織リ種々ノ魚ヲ獲スルヲ半年ニ三万尾ニ下ラヌ竹細工ヲナス女子ハ専ニ織績ニ従事ス

雜事

○全島巖石ナルヲ以テ清水ト薪材トニ乏シ清水ハ山間海岸等ヨリ湧出スレニ極テ少量ニシテ早スルヲ二三十日ナル時ハ全ク涸渇スルニ至ル故ニ常ニ甕ニ雨水ヲ貯ヘテ飲料トシ又雜用ニ供ス島民海ニ入りテ潮ニ浴スル外浴湯スルヲナク朝起啣嗽セズ全島井ナシ薪材ハ八丈島ヨリ仰ク
○島ニ水田ナシ畠ハ嶽山ヲ墾闢シタルヲ以テ皆傾斜ナリ風強ク早害多シ土性ハ宜シ

○寶永五年海嘯アリタリ

○物産ハ絹、紬、蕪菁、木魚、竹細工、まくさ、席等ナリ

村里

○島ヲ分チテ宇津木、島打ニ村トス

○宇津木村ハ東方ニアリ○村内ニ向里、
○村道十七町、頗、險ナリ

○島打村ハ西方ニアリ○村内ニ下浦、中里、
○村道五町二十間

〔反別〕

○加反別拾九町五反四畝拾六歩半

○古畑反別拾九町五反三畝八歩、新田六畝七歩、新島一町八反四畝廿九歩、山畑五十六町一反一畝四歩（明治十年調）

〔租稅〕

○上納五十七端二丈

○内四十六端定納九端二丈、役納二端、桑葉代

○明治以來ノ地租ハ八丈島部ニ併記ス

〔戸口〕

○戸五十八、口四百二十三、

○目下ノ戸口ハ東京府統計簿ニ八丈島ニ合記セルヲ以テ詳ナラス明
治十年ノ調査ニヨレハ左ノ如シ

戸八十 口五百〇四

〔島吏〕

○名主二人 浦役人二人 名主兼務ス

〔船艇〕

○漁船八隻 八丈島へ往復スルニモ之ヲ用タス 漁船十隻

山川

○椎津川ハ宇津木村ニアル小溪ナリ飲用トス

○トオレ川ハ島打村ニアル小溪ナリ飲料トス

埠頭

○海濱池濱ハ北方ニアリテ島打村ニ屬ス

○和田湊ハ宇津木村ニアル小島ナリ斷崖絶壁梯ヲ攀テ登ル可シ

神社

○村社ハ幡神社 正一位 八郎神

○宇津木村藤澤鎮座 ○鎮西八郎爲朝ヲ祭ル

○傳云フ爲朝ハ丈ニ渡島シ島民ヲ畏服セシガ終ニ承安三年八

月十五日小島ニ於テ自殺ス 八丈島島人祠ヲ建テ、之ヲ祭ル源頼朝

金銅ノ鏡ニ神影ヲ鑄テ寄贈セシム後高倉守貞王親筆ノ八郎明神ノ宇

ヲ金銅ニ刻セシメ又其像ヲ鑄造シ甲冑弓矢ヲ添テ納メシム爾來鎌倉

歴代ノ幕將相次テ崇敬ス慶長七年徳川家康ハ丈ノ役人與山縫殿助ニ

命シテ再々金銅ノ鏡ニ神影ヲ鑄又神像ヲモ造リテ納メシムト其後島ノ

代官甲冑ヲ献ズルヲ例トセシガ寶曆中ニ至テ止ム 寶曆八年三月代官小林

今尚祭時爲朝ニ從テ渡島セシ五十余人ノ靈ヲモ招祭シ供物ヲ供ス祠

ニ爲朝ノ弓 長八尺一分一寸五分、 太刀、長刀、燕尾箭、及戸帳 寺社奉行所ヨリ寄贈ス

リナ等ヲ藏ム祭田一段三畝十五歩ヲ有セシモ寶曆五年七月海濱ニテ

荒蕪ニ屬シタルヲ以テ島代官ヨリ縣官ニ上申シ例年祭資米二石宛寄

進スル一ニ定ム神職菊池氏 爲朝ノ從者五十余人ノ一人九州前池氏ノ一

○社域二百三十

○八坪官有地

增戸隠神社

社城八百四十坪官有地

增鳥打村鎮座祭神不明或云手力雄神

堂 宇

增地 藏 堂

增鳥打村ニアリ八丈島宗福寺ニ隣屬ス本算地ニ

增堂城十六坪私地

墳 墓

○源為朝ノ墓ハ宇津木村坪澤ニアリシモ往年海嘯ニテ海ニ没セリ今猶其處ヲ知ル可シ是レ為朝自裁ノ遺址ナリ

增觀源為朝遺器記ニ曰ク保元中源為朝流于伊豆大島威服諸島久居八丈後又達鬼島今稱當其被討尚能一箭淪没人艦舉軍辟易歸家刺腹而死其自裁處今在小島ト中外經傳南

青 島

總 説

○八丈島ニ隸屬ス

○往古鬼ガ島ト稱ス住民髪ヲ被リ木葉ヲ衣鬚鬚長ク色黒クシテ狀鬼ノ如クナリシニヨリテ名ク島人今猶身長ク毛多ク内地人ト異ナレリ源為朝渡島シ島邊ニ蘆葦多ク生スルヲ見テ葦島ト改ム後青ガ島ト稱ス三宅記ニハ此島ノ形勢オフノ魚ノ鼻ニ似タルニ因テオフノ島ト名クトアリオフノ魚ハ鯨乎

增源為朝八丈島ヲ略有シテ後此島ニ渡航シ島民ヲ威服セリ○保元物語ニ曰ク為朝一日八丈ノ海濱ニ出テ遊ビケルニ白鷺青鷺ニツ連レテ沖ノ方ヘ飛行ヲ見テ此島ドモノ飛行クヤウコソ不審ナレ一定沖ノ方ニ十ホ島アル可シ島ノ下ル處ヲ見ントテ急キ水主梶取ヲ召寄テ船ヲ出シケリ日モ暮レ夜ニモナリ又月ヲ簪ニ潛行ケバ曙ニ鳥影見エ又潛寄セタレト荒磯ニテ浪高ク岩嶮クシテ船ヲ寄ス可キヤウモナシ押廻シテ見ルニ乾ノ方ヨリ小川ヲ流レ出テタリケル御曹子此程島ニアリテ船ハ能調練シ

タレバ押上ゲテ見給フニ樹皮モテ造リタル舎七、ハアリ被舎ヨリ大童ノ
髪ハ空ザマニ取上ゲ色黒ク牛ノ如クナルガ四五人出テ來ル詞モ聞知レ
ザレバ大方推テアヘシラフ此船ヲ見テ風ニ放タレタル船カト思ヒ物ヲ
取ント思フ氣色ナリ御曹子弱ク見セテハ叶フマジト思ヒテ已等何ト云
者少汝ガ有様ヲ語レト云我等ハ鬼神ノ末ナリサレ氏人ヲバ食ハズ只此
島ヲ領シテ月日ヲ送ル昔ヨリ此島ニ來ル者生テ還ル者ナシ荒磯ナレバ
船ハ自浪ニ碎カル食物無ケレバ命盡クルナリ若船有ラバ糧ツキザル前
ニ早ク返ル可シトウ申ケル郎等ドモハ皆興ヲサマシテ居ケレ氏爲朝ハ
少シモ噪ガズ磯ニ船ヲ置キタレバコソ浪ニモ碎カルレ高ク引上ゲヨト
テ遙ナル岸上ニウ引上ゲシメケル而テ島ヲ巡リテ見給フニ田モナク島
モナク果モナク縞綿モナシ汝等何ヲ以テ食物トスルト問ヘバ魚鳥ト答
フ汝等我ニ從ベト云ヘバ我等昔ヨリ人ニ從フナシト云其時御曹子懼
キ奴ノ言事哉トテ大鎗ニテ樹上ノ島ヲ射墜シ天ヲ翔ルヲ射殺シ汝等モ
我ニ從ハザレバ如此射殺サント云ヘバ皆平伏シテ從ヒケリ乃縹ノヤウ
ナル縹ヲ各ノ家ヨリ持出テ、前ニ積置ケリ島名ヲ問ヘバ鬼ガ島ト申ス

伊豆七島志

サラバ島ノ名ヲ更ントテ大キナル輩ノ多ク生タレバ輩島ト名ケラル此
島ヲ八丈ノ脇島ト定メテ年貢ヲ運送ス可キヨシヲ申スニ船ナクシテ奈
何スベキト歎ク故ニ三年ニ一度船ヲ遣ス可キ旨約シケリ但今渡リタル
シルシニトテ件ノ大童一人俱シテ伊豆國府ヘ其事トナク遣シケリ云々
保元物語諸本ヲ刪定レ記ス世ニ爲朝ヲ其體ニ三五此島ニ爲朝ノ古蹟存ス
トノ鬼傳伏長教セル狀ヲ圖スルハ此島ニ至リレ時ノ體ナリ

位置

○八丈島ヨリ午未ノ方十三里三十丁ニ在リテ伊豆海島中ノ極南ニアリ

形勢

○東西二十町南北十二町余周回三里許

○高山四周シ其中巖嶽タル大壑ナリ海岸巖壁立上陸スル能ハサルヲ
以テ懸崖ニ材木ヲ架シ横木ヲ結ヒテ梯トナシテ昇降ス○西方ハ水池浦
北方ハ神子浦西北ハ西浦等ヨリ上陸ス可シ共ニ灣内秋隘巖壁險絶大船
ヲ寄セ難シ

○島中路途極テ險窄ナルヲ以テ少シノ物貨モ荷擔ス可ラス皆之ヲ頭上
ニ載ク

伊豆七島志

○島ノ記録ニ曰ク曰、田畑總段別八十三町四段一畝廿五歩アリシガ
安永天明ノ噴火ニテ二十八町一段七畝歩ハ焦土トナリ二十六町一
段九畝十八歩ハ海中ニ墜没シ殘地段別二十九町五畝七歩外ニ新開
畑五町三段一畝歩アリト

〔租 稅〕

○上黄紬三十一端

内廿六端定納、二端役紬、三端鹽脯二千疋代

○明治以來ノ地租ハ八丈島部ニ併記ス

〔戸 口〕

○戸五十三、口四百余

○目下ノ戸口ハ東京府統計簿ニハ丈島ニ合記セルヲ以テ詳ナラス
明治十年ノ調査ニヨレハ左ノ如シ

戸一百〇四、口六百八十九

〔島 吏〕

○名主一人 浦役人一人 名主兼 務ス

〔學 校〕

○尋常小學校一

〔松 艇〕

○官艇一隻長六間四尺八丈へ往復ニ供ス 漁艇三隻 漁船三十隻

池 泉

○島ノ中央ニ大池小池ノ兩池アリ大池ハ北方ニアリテ周回廿八町小池
ハ南方ニアリテ周回十二三町俱ニ深數十仞アリシガ安永中噴火ニ大半
埋没セリ同時大池近傍ノ火井ヨリ數所ノ熱泉涌出シテ皆大池ニ流入セ
ルヲ以テ島民石ヲ疊ミ浴場ニ設ケテ浴スト云フ此邊噴火ニテ地形大ニ
變遷セリ

神 祠

○村社須賀神社

○向里鎮座祭神須佐之男命ナリト云

○社址六
坪官有地

○村社東大所神社

○向里鎮座祭神大己貴神ナリト云

○寶曆七年再建スト云社城四十坪官有地

○左ノ二社ハ今公簿ニ載セス原書ノ儘此ニ録ス

○爐鬼明神社ハ大里ニアリ爐鬼ヲ祀ルハ鬼島ノ稱ニ因ルカ祭田廿歩

○辨天宮ハ池濱ト云處ニアリ

伊豆七島志卷之中終

伊豆七島志卷之下

豆州 秋山 章
萩原 正夫 纂輯

土産部

○本部ハ諸島ニカ、ル産物製造品ヲ掲載ス

○本部ヲ土石草木、禾穀、菜葉、魚介、海草、禽獸、雜物ノ數類ニ割載シ閱覽ニ便ス

○數量少ナキ者又収利多カラサル者ハ別ニ類ヲ分チテ之ヲ輯録ス

○七島近海ハ黒潮ノ流域ニ當リ水族多ク棲息セルヲ以テ漁獲ノ方法宜キヲ得バ利潤頗多カル可シ

○最末ニ諸島物産統計表ヲ掲ク

土石

○硫黄ハ八丈島三原山脈黒山嶽ガ峯等ニ産ス檉立村白瀑ノ近傍殊ニ多ク此邊ノ土堀百中ノ六十八純硫黄ナリ○八丈島ナホ大島其他ニモ産ス硫

黄ハ硫酸、火藥等製造ニ用ウ

○甲化石ハ新島向山噴火坑邊ニ累積セル燒石ヲ稱ス灰白色ニシテ其質輕脆能ク水火ニ堪ルヲ以テ竈及倉庫ニ使用シ又長三尺幅二尺五寸厚ニ三寸ノ版石トナシテ瓦ノ代用トシ屋宇ヲ葺ク

草 木竹

○黄楊ハ御嶽島ノ特産ニシテ南郷其他ノ山野ニ繁茂ス材質堅緻ニシテ印章飾等ヲ作ル良材ナリ本島ノ産全國ニ冠絶スト云フ産額多ク収利少ナカラスシテ島民ノ生計ハ專之ニ依ル伊豆諸島延四報告ニ曰ク御嶽島ノ黄楊ハ其生長極ナ良好ニレテ海面ヲ被クテ大約五百尺ヨリ二千二百尺マアノ間他ノ樹木ト共ニ雜生ス其大ナル者ハ幹ノ周圍大約二尺ハ九寸高ニ丈ニ過ク自然生ノ黄楊ハ皆之ヲ島民ノ共有物ト定メ相互結約レテ之ヲ保護管理セリ其方法ハ每歲必發株ノ新苗ヲ栽植スルニ非レハ成木ヲ斫伐スルニ能ハヤラレム故ニ毎年五百株ヲ補植レ五百本ノ成木ヲ伐リテ之ヲ賣ク例トス黄楊ノ養生ハ大約每一反歩二十株トシ全島ヲ總計スルニ全島ノ山林及別大約三千町歩トナレ其三分ノ二ハ他ノ雜木トシ三分ノ一ヲ黄楊トスル時ハ一千町歩ノ木數二十萬株ナリトス之ヲ每歲五百本ヲ斫伐レテ四百餘年間ノ需要ニ充ツ可レ況ヤ五百株ツ、ノ新苗ヲ補植スルニ於テヤ從前ハ種ニ自然生ノ成木ヲ斫伐レテリレガ近年此年々補植ノ方ヲ設ケテトルナリ○古來山中ニ自生スルモノアリ今專之ヲ種植シ東都へ出ダシ販賣

○又三宅島雄山ヨリ産出スル者頗多シ是レ皆御嶽島ヨリ移植セル者ニテ此島ノ地味風土ニ適シ親近大ニ蕃殖セリ其他利島ヨリモ産出スレモ多カラス

○木材ハ左ノ數種ヲ産出ス

○榎樹ハ諸島頗多ク三宅御嶽二島ノ如キハ全島ノ森林大半此樹ニシテ頗巨大ナル者アリ建築造船等ニ用ウハ丈ニテハ樹皮ヲ織物ノ黒色ノ染料トス

○羅漢松ハ諸島ニ多ク蕃生スレモ八丈島ニハ少ナシ材ハ建築ニ用ウ

○天竺桂ハ方言くさだみハ文新島あさがらモ三ナド呼ブ八丈其他諸島ニ産シ巨木アリ材ハ屋宇ニ用キ實ハ蠟ヲ製シ又燈油ヲ取ル○八丈ノ民皮ヲ煎シテ衣服漁網ナドヲ染ム

○山桂ハ天竺桂ノ一種國地ニテ志ろだもト呼ブ八丈其他諸島ニ頗多シ○此木方言だみナレモくさだみに對シテまだミト云フ玉楠ト云木ニ似テ大木ナリ性モ楠ニ類ス此材ニテ船ヲ造ルニ久キニ堪フ樹皮ハ織物ノ茶褐色ノ染料トス首夏花ヲ開キ六月實熟ス此實ヲ搗テ麥粉ニ

マシヘ種トス

○松ハ諸島ニ産スレハ大島三宅島ヲ多シトス屋材ニ用井又薪料トス
○杉ハ三宅大島等ニ産スレハ甚多カラス

○薪材ハ島民伐採シテ自用ニ供シ又内地ニ輸出ス就中大島ニテハ採薪
ヲ生業トスル者多ク島中物産ノ魁タリ東京ニテハ之ヲ島薪ト稱シテ價
高シト云フ諸島ヨリ産出スル薪材ノ最タル者左ノ數種トス

○山樺木ハ赤揚ノ一種ナリ大島ニ尤多シ是貞享中噴火後山野ニ移植
シ爾來繁殖セルナリ其他八丈三宅新島等ニ多シ此木及まざくらハ
伐換畠ニ種植シ十四五年ヲ經テ伐採シテ薪料トス

○まざくらハ山櫻桃ノ一種ナル可シ大島其他諸島ニ産ス島民專テ伐
換畠ニ種植ス其實大ニシテ食フ可シ

○女眞ハ生長速ナルヲ以テ大島ノ民之ヲ種植シテ薪料トス八丈島ニ
ハ往々大木アリ

○山茶ハ諸島隨處ニ蕃生セサルハナシト雖利島ヲ最トス此木諸島ノ
地味ニ適應シテ樵トナシテ生育ス氣候暖和ナル故冬日花ヲ開キテ爛

櫻タリ

○桑ハ近年諸島栽培セサルハナシト雖八丈三宅御嶽ノ三島ヲ多シトス
○八丈御嶽三宅利島等ノ山中桑ノ自生大木アリ其材ハ器具ノ料トシ
テ内地ニ輸出ス○八丈殊ニ良桑ヲ産ス其材質堅緻華桑ニ比ス可シ徳

川家康八丈桑ヲ尋ネシ事駿府政事録ニ見ユ
○鳳尾蕉ハ諸島ニ産ス春夏ノ候花ヲ開キ實ヲ結フ美觀ナリ

○そろハ土名ナリ八丈島ニ産ス木ハ櫻欄ニ似テ大ニ葉亦潤シ多クノ星
霜ヲ經ザレバ大木トナラスト云フ大ナルハ幹ノ長三丈餘圍三尺ニ至ル

季夏花ヲ開キ初冬實熟ス實ヲ割ケハ麵粉ノ如キ者アリ漢名未詳

○紗櫛ハ八丈島ニ産ス山中溪谷等ノ濕地ニ自生シ幹ノ直立一丈乃至二
丈許圍二尺余ニ至ル梢頭葉ヲ生シ其形蕨ノ葉ニ似テ深緑ナリ○其木理

絲瓜ノ如ク縊繩ヲ以テ織タルカ如シ以テ門柱トシ又花盆ヲ製シテ草木
ヲ裁ウ可シ方言云々

○歪頭桑ハ八丈三宅御嶽島等ノ山野ニ自生ス葉ノ長三四尺蒼翠愛玩ス
可シ○八丈ノ産大ナルハ長六七尺ナル可シ諸國如此大ナルハナシ一名

菊芝

○苦竹ハ諸島ニ産スレハ大島野増村ニアルヲ最良トス

○含系竹ハ諸島ニ多ク蕃生ス

○草綿ハ八丈島及属島青ヶ島三宅島阿古坪新島等ニテ栽培ス其絮ヲ衣服布團等ニ入レ又糸ニ製ス

○煙草ハ諸島概栽培スレハ八丈三宅ニ島ヲ多シトス○八丈ノ産頗佳ナ

○茅ノ一種方言まぐさ又ナラム又たがやト稱スル者八丈大島新島其他諸

島ニ産ス其葉長大ニシテ四時枯レス島民之ヲ栽植シテ屋ヲ葺キ又牛馬

ヲ養フ○新島ニテハ席ヲ織リテまぐさ席ト呼ブ○ホ諸島ニ通常ノ茅

ヲ産ス之ヲまがやト云フ

禾 穀

○粟コメハ諸島作ラサルハナク穀類中産額最多シ又裸粟ハダカメヲ作ル

作ルニ過ギズ

○早稻コメハ三宅大島利島等ニ耕種スル者アリ三宅島ヨリ産スル者尤多シ

○大麥オホムギハ諸島作ラサルハナク穀類中産額最多シ又裸麥ハダカムギヲ作ル

○小麥コメハ諸島播種スレハ産額多カラス

○粟稜アハヒハ諸島ニ作ラサルハナシト雖ハ丈三宅新島ヲ最トス就中多ク作

ルハ稜ナリ

○豇豆アサドハ各島作ラザルハナシ新島最多シ

菜 葉

○鹹草アサダハ諸島山野ニ自生シ又陸田ニ播種ス一根數莖ヲ生シ葉形獨活トクワニ

似テ大ク淡緑ニシテ光澤アリ冬ヲ經テ枯レズ莖ヲ斷テハ黄汁出ツ發生

ヨリ三年ヲ經テ夏季白花ヲ開ク細小ニシテ其狀傘ノ如ク獨活ノ花ニ似

タリ秋種子ヲ収メ十一月播種ス葉ハ常ニ摘テ之ヲ食シ根ハ二年生ハ味

美ナレハ短小ナルヲ以テ三年ニシテ食ス此草八丈其他諸島ニテハ貴重

ノ蔬菜ニシテ島民常ニ食料トス○夕ニ根ヲ食ヒ朝ニ葉ヲ食フ故あした

葉ト呼ブハ丈島ニテハあいた神津島ニテハあまをト云フ一年生ヲ小花

鹹三年生ヲ三年鹹ト稱ス三年ニシテ莖高四尺餘根長尺餘圍五六寸ニ至

ル根ハ少シ苦味アリテ氣香シ三年ヲ經過シタルハ筋ヲ生シテ食フニ堪

へズ今諸州ニ移植シテハ丈草ト呼ブ本草綱目塩鉄子ノ附録ニ鹹草ヲ載ス即是レナリ

〔增〕文獻通考四番考曰、女國在扶桑東千里、食鹹草、葉似邪蒿、氣香味鹹。王充論衡曰、周時天下泰平、越裳獻白雉、倭國貢鹽艸。鹽ハ鹹ノ誤寫ナル可シ

〔增〕一種山あした或ハ野ト呼ブアリ亦食フ可シ

〔增〕甘薯ハ諸島隨處ニ作ラサルハナク産額尤多シ是レ島民常食ノ最タル者ナリ但御藏島ハ野風ノ害多ク〇八丈島ニテハ四時繁茂シ冬日枯凋セサルヲ以テ畝ニ作りオキテ終年掘り食フ

〔增〕享保二十年代官向井將監甘薯種子拾俵ヲ大島ニ寄贈シ爾來諸島ニ蕃息セルナリ

〔增〕青芋亦諸島作ラサルハナクシテ産額少ナカラス八丈島ニテハ終年繁茂スルヲ甘薯ニ同シ

〔增〕茄子ハ諸島ニ産ス八丈ニテハ終年枯レスシテ莖ノ高五六尺ニ至ル五六月ヨリ十二月迄實ヲ結フ經年ノモノ其實差小ニシテ味美ナラサルヲ以テ島民概年々種植ス

〇蘿蔔ハ八丈ノ産味甘美ニシテ内地ノ産ニ勝ル

〇蕪菁ハ小島ノ産莖長クシテ根大ニ其味天下比ナシト云フ〔增〕八月播种レ三月余ニ至ル十二月根熟ス平圃ニ種テ根八九寸ハ丈ノ産亦味美ナリ

〔增〕菘ハ諸島栽培セサルハナシ

〔增〕薯蕷ハ八丈島ニテ栽培スルモノ多ク頗良品ナリ

〔增〕藟ハ諸島ニ産スルヲ少ナカラス

〔增〕香草ハ諸島山陰ノ枯木ニ自生スル者少ナカラス又人エニテ發生セシムル者アリ八丈御藏三宅神津島等ヨリハ他へ輸出ス

〔增〕柯實ハ諸島ニテ採収シテ食料ニ充テ又内地ニ輸送ス其産額八丈三宅大島ヲ多シトス

〇楊梅ハ八丈神津島其他諸島ニ多シ〔增〕諸島山中ニ自生アリテ初夏實ヲ結ブ樹皮ハ藥用トシ又染料トス

〔增〕柚子四青橙香橙密柑ハ諸島ニ産スレハ八丈島ヲ最トシ毎戸ノ庭園兩三株ヲ栽植セサルハナシ〇八丈ノ産其實大ニシテ味美ナリ

魚 介 産 物

伊豆七島志下 土産部

○鰯魚ハ黒潮ノ流域ニ棲息スル魚族ニシテ七島近海ニ尤多シ初夏漁スルヲ初堅魚ト稱シテ賞味スルヲ以テ大島新島邊ニテ漁獲シ之ヲ東京へ輸送ス又諸島ニテ其肉ヲ乾シテ木魚ヲ製スルヲ少ナカラズ木魚ハ神津島ノ産品質諸島ニ冠タリ此魚水産物中ニテ収利最多シトス三宅島ニテスルニ牛角ノ以テ島鰯ノ形ニ模造レ之ニ鰯ヲ附レテ釣ル又トウゴトヤヒト稱スル小魚ヲ鰯トレテ釣ル

○鰯魚ハ諸島ニテ漁スレバ新島ヲ多シトス八丈ヨリ乾鰯ヲ出ダス一種鳥類魚方頭魚ぶだひ等アリ黒鰯ハ八丈ノ産名アリ

○鰯魚ハ新島大島神津島等ニテ漁スル者多シ一種室鰯ムロイサあり室鰯ハ大島其他ヨリ乾魚トナシテ輸出ス島鰯ハ八丈ニ多シ島民さびレト呼ブ○島鰯ハ長二尺許味佳ナリ

○鰯魚ハ三宅新島等ニテ多ク漁ス

○青花魚ハ大島ニテ多ク漁ス新島ヨリ鱈節ヲ出ダス

○文鰯魚ハ三宅島ニテ漁スルヲ頗多ク鱈節又ハ鰯魚トシテ輸出ス之ヲ漁スルニハ松火ヲ漁船ニ懸シ其火邊ニ群集スルヲ待テテヤモト云者ニテ衝キテ捕フ近年ハ網ヲ以テ之ヲ捕フト云

○たかべハ大島新島神津島等ニテ多ク漁シ乾魚トナシテ輸出ス此魚長七寸深七寸

○鰯魚ハ諸島ニテ漁ス一種赤魚アリ脯蒸ヲ製ス

○鰯魚ハ其種類頗多シ諸島ニテ漁スル者少ナカラス八丈ニテハ其脂ヲ燈油トス○一種踏沙アリ方言かじきとほし又はつせ八丈青ガ島近海ニ多シ長一丈六七尺灰色也鼻長三四尺堅利ナリ以テ鰯ヲ食フ可シナホ數種アリ

○鰯魚ハ八丈近海ニテ漁ス

○秋光魚、金鰯魚其小ナルヲ鰯ト云フ、華鰯魚、章魚等諸島ニテ漁スルヲ少ナカラズ

○乾魚、鰯魚ハ諸島ヨリ産出スルヲ頗多シ

○海蝦ハ大島新島三宅島等ニテ漁ス八丈及小島青ケ島等ニテ漁スルハ長三尺許鬚ヲ合セテ五尺以上ニ至ル者アリ味極テ美ナリ龍蝦ノ一種ナル可シ三五尺ノ島ニテ大蝦長又一種八丈島ニテ島俗足中蝦ト呼ブ者アリ龍蝦ニ似テ扁ク鬚ナシ

○石決明、拳螺ハ諸島ニ産スレバ新島ヲ多シトス八丈ヨリ干蛇ヲ出ダス

又石決明ノ一種鰻ハ八丈ニ多シ方言あぶき鰻ハ中野村海岸ニ最多ニ客ナカラ

○**鰻** 鰻ハ諸島近海ニ多ク島民捕獲シテ之ヲ食フ肉味美ニシテ犢牛ニ似
タリ滋養多シ○通例長三四尺八丈ノ漁民ヤモト云器ニテ銜キテ之ヲ捕
フ肉ハ塩ニテ煮テ上膳トシ脂ハ燈油トスハ一頭ヨリ凡七○**鰻** 鰻ハ英佛等ニ
テハ貴重ノ食品トナシ上等ノ調理ニアラサレバ用ヰズ諸島捕獲ノ方法
完カラサルヲ以テ未他へ輸出スルニ至ラサルハ惜ム可シ○又一種赤亀
アリ形差小ニシテ赤色ナリ肉味劣レリ

海 草

○**石** 花菜ハ海中ノ砂石ニ叢生ス春夏ノ候之ヲ採収シテ内地ニ輸出ス三
宅大島神津新島等産額多シハ丈御藏利島ハ甚少ナシ

○**乾** 海苔ハ諸島ヨリ産出スレレ大島新島神津島等ヲ多シトス

○**海** 羅ハ方言むさり大島新島等ヨリ輸出スル者頗多シ新島ノ産良品ナ
リ

禽 獸

○**牛** ハ從來諸島ニ蕃息セリ諸島氣候温暖冬日牧草ニ乏シカラサルヲ以

テ頗牧畜ニ適セリト雖其方法完カラサル爲メ近年大ニ減少セリ又島中
民家飼養スル者少ナカラズ今其概略ヲ舉レバ左ノ如シ

○**八** 丈島西山々中ニハ古來野牛頗多シ近世山腹目七以上ヨリ上ヲ劃シ
テ牧場トナシ木柵石壁ヲ設ケテ牛ノ逸出ヲ防ク目下牧牛二百余頭ア
リ○此島ノ産強大ニシテ長門牛ニ等シ又島民毎戸二三頭或ハ五六頭
ヲ畜ヒ物貨ヲ駄シ又農耕ニ使用ス○**目** 下本島ノ耕牛二千六百七十六
頭アリ

○**三** 宅島雄山ニモ從來野牛多カリシガ近年島民之ヲ捕ヘテ飼養シ又
他へ販賣スル者多ク野産殆盡ントセルヲ以テ明治廿年山ノ東南方ヲ
劃シテ牧場トナシ良牛一百五十頭ヲ放チテ蕃息ヲ計レリ目下牧牛三
百五六十頭アリ六〇野牛百又島民毎戸牛ヲ畜ハザルハナシ

○**神** 津島天上山ハ野牛多クシテ頗強猛ナリ○**目** 下牧牛三四十頭アル
ノミ○此島ニテハ民家牛ヲ畜ハズ

○**新** 島ハ野牛多クシテ頗強種ノ害ヲ爲ス○**島** 南向山々中ニ從來蕃息
セシガ目下大ニ減少シテ纔ニ二十四五頭存スルノミ農家牛ヲ飼ハズ

○大島三原山中從來野牛多ク或ハ千餘頭ニ至ルアリシモ牧養ノ方法宜キヲ得サルガ爲メ目下野産ハ全ク盡ク大島島民毎戸牛數頭ヲ飼養セサルハナク年々五六十頭乃至百余頭ヲ輸出ス

○御藏利島二島ハ古來牛ヲ牧セズ

○馬ハ大島三原山三宅島雄山等ニハ從來野産多カリシモ近年全ク盡ク野馬大島凡六百頭三宅島九十五頭目下諸島民家ニ飼養スル者大島三宅島ヲ多シトスレバ牛ニ比スレバ甚少ナシハ丈ハ全島數頭アルノミ御藏島ニテハ近年始テ飼養シテ農耕及運搬ニ使用スル者アリ他ノ三島ニテハ之ヲ畜ハス

○海鰐ハ諸島近海ニ栖息シテ常ニ海面ニ浮ビ巖礁ニ上ル三宅島ノ伊雜波嶼大野原嶼等ニハ數千群集ス漁夫之ヲ捕獲シテ其肉ヲ食ヒ脂ヲ燈油トス

○鯨魚ハ一名まとり狀海鰐ニ類シテ色黒ク海上ニ浮ビテ魚ヲ食フ蹊アリ夜ハ山腹窟中ニ棲ム御藏島南郷山中殊ニ多シ土人冬日黄昏窟中ニ入ルヲ候ヒテ之ヲ捕フ一冬捕獲スル所一千ニ下ラス島民煮食シ又内膏トナス其味及肉色鱈魚ニ似タルヲ以テ名クハ丈三宅新島等ニモ産ス

○鷄ハ諸島人家ニテ飼養スレバ大島三宅島ヲ多シトスハ丈ニハ野産アリテ常ニ森林ニ栖ム又諸島ニ黄鷄カウチ聞鷄ウチ烏骨鷄等アリ

雜物

○八丈絹及紬ハ八丈島ノ名産ニシテ古來ハ丈織ト稱シテ世ニ賞セラル黄絲カウチ棒線ノ織機ノ編織ナルヲ黄八丈ト云ヒ黒色無地ナルヲ黒八丈ト云フ黄色ノ染料ハ青茅カウチヲ用ウルヲ上トシ楊梅ノ皮ヲ用ウルヲ次トス棒色ハ山桂ノ皮ヲ用井黒色ハ椎ノ皮ト泥土トヲ用ウ共ニ褪色セス○黄色ハ七迄ノ間ニカリヤナヲ煎レテ三十七八回煎ノ山茶ノ灰ニテ色ヲ出ダス棒色ハ秋冬中まじみノ皮ヲ煎シ凡三十四回煎テ赤山茶ノ灰ニテ色ヲ出ダス黒色ハ椎ノ皮ヲ煎シ二十四五回煎テ水田ノ泥ヲ以テ色ヲ出ダス是レハ時ノ定ルナレ共ニ年ヲ經テ色變ラズ柔ニシテ濕ヲ遠サズ故ニ世ニ之ヲ賞ス○伊豆島是日録ニ曰ク染色令ハ三ツニ限ルニアラズ俗ニ備前島ト云如キ者又其最濃ヲシテ紫ニ近キ者一ニシテ足ラズ皆三種ノ原料モテ染メタル上ニ他ノモノヲモテ色ヲカヘスナリトフ但實納爾ハ今ニ其色三種ニ限リレマカラモ一定ノモノアリテ新タナルヲ織リ出ダスナレト云フ又現今織リ出ダス者ニハ其名各種アリテ其第一トスルハ少カヘ織ト云フ是レ實絹ノヒカヘニテレマカラ寸尺地合マアモ同シヤナリ若料丹後ト云フハレマカラハ少カヘ織ニ類スレバ工女ノ意匠次第ニテ新タナルレマカラ織リ出ダレ一定セルナク幅少レ狭レ糸細ハ糸ノ粗ナルヲ用キ棒色ヲ主トシレマカラ夜具ナドニナレテ然ル可キヤナリモノナリ白絹ハ白地ニテ黄絹ハ黄ノ無地ナリモトハ黒ノ無地ナルヲ多ク織リレモレナルガ今ハ何故ニヤ絶

テナレ太織ハ糸屑モテ織リ袖ノ極ヲ粗ナル者ナリ男帯地ハ博多織ヤウナレモレマカラ
ハ大ニ異ナリ且織リ方モ粗ナリ又細田ト云アリ所製田ノ類ナリ是レ其概略ナリ此
ハ文ヨマヲ内地へ出ダス時クハヒタル上ヲトアル糸ノ色ニ五ヶ村各定リアリテ大賀郷
ヨリ織出ス者ハ白、極立村ハ橙ニ白ヲ交ヘ中ノ舞ハ黄末吉村ハ黒、三根村ハ淡黄ヲ用ルガ故
ト云ト一曰味然ナリト云フト云 ○八丈絹ニハ反掛五反掛ト云ハ一端ヲ以テ
黄紬ハ反五反ニ換ルヲ以テ名クハ反掛ハ糸ヲ紡クニ紡車ヲ用井ズシテ
悉ク手指ニテヨル織ルニ機ヲ用井ズシテ向フヲ柱ニ結ビ前ハ腰ニツケ
テ織ル手ヲ勞スルヲ甚ダ最上ノ絹布ナリ五反掛ハ機ヲ用ウ五反掛ハ合
糸織トモ呼ブ ○糸ハ島産ノミニテハ不足セルヲ以テ近年ハ内地ヨリ輸
入スル者少カラス島中ノ女子率織織ヲ以テ生計ヲ營ム

○八丈絹及紬ハ後北條氏ノ時貢物ニ充テ爾來慣例トナリテ今ニ至レ
リ北條五代記ニ後北條氏五代ノ間
毎年八丈島ヨリ絹ヲ貢ストアリ又徳川幕府ノ時毎年命アリテ特ニ織リテ
獻進シタリ八丈島記録ニ曰ク西元九御召御用ハ上平(黄紬ナリ)合織(八丈絹ナリ)帶織(八反
糸ナリ)等御船秋渡海ニ御贈奉渡リ糸仕方ハ冬ノ内織リ漆ノトモニ出来テ
春ニ至リ織宿ト定メタル家ニテ織ル糸ハ土地ノ産ナリト又曰ク正徳元年九月御座船
新島船ニテ若君御召地羽ニ重ニ反黄漆ニ御執被仰付同年十月御座出来右島ニ積入レ
出帆又同月又御船ノ便ニ羽ニ重ニ反黄漆ニ被仰付云々ト
付同三巴年御召地御用羽ニ重黄漆ニ被仰付云々ト

○東鑑治承五年ノ條ニ大神宮幣物八丈絹ニ足參河國奉納トアリ神中
行事ニ十ホ建久三年ノ條ニモ八丈絹ノ事見ユ續古事談ニ曰ク大太郎ト
モ見ユ行事ニ十ホ建久三年ノ條ニモ八丈絹ノ事見ユ續古事談ニ曰ク大太郎ト
云盗人ノ大将アリ或時京へ上リ物取リヌ可キ所アラバ入テ取ント思
ヒウカマヒアリキケル程ニアレタル家ノ築地ナド處々落チカ、レ
ル内ニ男ト思フ者ハ一人モ見エズ女ノ限り集リ居テ八丈費ルモノ呼
入レテ絹多ク取リ散ラシ快ク買ヒケリ云々ト其他ノ書ニモ八丈絹ノ
見エタレバ古クヨリ内地ニ渡リテ世ニ賞セラレシ者ナラム ○一説
ニ云フ世ニ八丈絹ト云フハ尾張八丈美濃八丈ナトモ云ヒテ古諸國ヨ
リ織出セル者ナル可クシテ一疋ノ長八丈ナルヲ以テ稱セシナラムト
記シテ後考ニ供ス

○八丈絹ハ諸島ニテ織出タセドモ三宅島ヲ多シトス

○炭ハ大島三宅利島等ヨリ産出スル者少ナカラス大島ニテ製造スル者
ハ尤良品ニシテ東京ニテ島炭ト稱シテ價高シト云フ

○山茶油ハ諸島ヨリ産出スル者少ナカラス其質精良ニシテ女子ノ髪ニ
塗リテ粘ラス又鐵器ノ鏽ヲ止ムルヲ妙ナリ此油利島ニテハ物産ノ魁ニ

シテ島民之ニヨリテ生計ヲ營ム者頗多シ又大島新島神津島等ヨリハ山
茶實ヲ内地ニ輸出スル一少ナカラス

伊豆島巡視日録ニ曰ク山茶ノ實ヲ収ムルハ
陰曆七月以後ニレテ八月十二三日頃ヲ最良

ノ期節トス之ヲトルハ實女子ナルガ樹ヲヨギ枝ヲ得ヒ採リテハ煉ニ入レ煉ニ滿ッレハ背ナ
リ取ナリ衣ヨリ溢レ出アザル限リハ肌ニツケ重ニニ堪ヘザルニ至リテ樹ヲ下リテ煉ニ處リ
畢リテ又學ヲ上ル若一樹ヲ採リ盡レテナホ衣ニミタヤレハ此樹ノ枝ヨリカノ樹ノ枝ニ傳ヒ
移リテ其輕捷ナル一樹ノ如ク到底男子ノ企テ及フ所ニアラスト云フカクテ採リ終リテ實ノ
上皮下皮トモニムキ取リテ大鍋ニ六分バカリ湯ヲ沸レ中ニ水ヲ十字ナリニ切りバミタル
ヲ加ヘテ中蓋ヲスル如ク此木ハ上ニ茶ヲオキ其茶ノ湯ニ浸ラザラシメシガ島ノノ後ナリ
茶ハ藤竹ニテヘリ圓ク鍋ト相懸フホドノ大キサニシテ其中ハアラタ亀甲形ニ組ミテ入京
ニテ俗ニメザルト云者ノ組方ニヒトレヲ扁キ一ハ善茶ヲ盛ルザルノヤマナリ此茶ヲ十字形
ノ木ノ上ニ載セ茶ノ上ニハ布ヲ敷キ布ノ上ニ山茶ノ實ヲモリ尋常ノ鍋蓋ヲナレテ蒸ス一數
時ニレテ熱スルヲ待テ取リ出ダレ白ニ移レ并モテ湯キ幹キ之ヲ藤竹ニテ組ミタル葉ヤ
ノモノニ容ル葉ハ大抵長一尺二寸許幅八寸許上ニ口アリテ口ノ横ノ徑ニ寸許組方ハ較ノ理
數ヲナレ俗ニアシベラト云者ニ類レテ粗ナリ榨ルニハマア地ヲホル一ニ尺許ニレテ尋常ノ
水瓶ホドノモノヲ置キ其穴ノ上ニ練又ハたみナドノ堅木ヲ長サハ七八尺幅ハ中心ニテ方一
尺四五寸左右ハ次第ニ絞リテ此木ノ中心ノ所ニ方八寸許ノ孔ヲサガテ孔ハ上ヨ
リ下ニ貫キ其孔ニ連リテ左右ニ又ヤ、小ヲレテ方ナル孔アリ此大ナル孔ノ中ホドハ葉ニ入
レタル山茶ノ實ヲ入レ其左右ヨリ水ノサテテ孔ニ空隙ナカラレム此水ヲレノ木ト云フ夫
ヨリ左右ノ小キ孔ヘ頭蓋ヲ蓋置ナル木ノ栓ヲ神ミ込ム此栓ハ孔ニキレム程ナルヲ大槌モテ
打込メバ栓ノ孔ニ没スルニ應ヒレノ木ハ中ニアル山茶ノ實ノ入りタル葉ヲ壓搾ス葉ハ榨ラ

ルハニ從ヒテ油ヲ其絞取ノ空隙ヨリ實キ出レテ下ナル瓶ニ垂ル、ナリ檢全ク没入ルニ及ベ
バ數ハ榨ラレテ一寸許ニ轉タナルヲ見テ檢ヲヌキ再ヒ其山茶ノ實ヲ取出レ前ノ如ク蒸レ直
レテ又絞搾ル此ノ如クスル一四五回ニレテ油分全ク盡タト云フ之ヲ榨ルモ亦女ノ常ニレテ
一人一日ニ山茶ノ實一斗八升ヲ榨リ上ルヲ通常トス而テ山茶ノ實ヲ取ルハ女一人ニテ一日
ニ四斗樽ニ一杯半ヲ獲ルヲ上ホトス一樽ノ實ハ皮ヲ去レバ一斗二升ニ減スルヲ普通トシ實
一斗八升ヨリ得ル所ノ油ハ大抵三斗バカリトス然レモ榨ル日天氣アレケレバ油ヲ得ル一減
スルヨレ
云々ト

山椿木實ハ夜又五倍子ト呼フ煎汁ヲ褐色ノ染料トナス大島三宅新島
等ヨリ産出スル者頗多シ

天竺桂ノ實ハ八丈神津利島等ヨリ内地へ輸出ス○此實ヲ搾リ燈油ヲ
取リ又白蠟ヲ製ス八丈ノ民平年ニハ内地へ出ダシテ殺ト交易シ凶歲ニ
ハ飯ニ交ヘ食フ

繭ハ近年養蠶行レテ産額少ナカラス又諸島生絲ヲ製スル者逐年増加
ス

ものし織ト云フハをりト云草ノ織維ヲ以テ織ル太布ニ似テ粗ナリ此
布久キニ堪テ十數年乃至二三十年ヲ保ツト云フ三宅島坪田村ノ特産ナ
リ

綿布ハ綿花ヲ紡績シテ織ル島地草綿ヲ作レモ甚多カラザルヲ以テ綿
 花ヲ内地ヨリ輸入シテ之ヲ織ル者少ナカラス三宅島及八丈島島小島等
 ヨリハ内地ニ輸出ス三宅島ヨリハ毎年大
約五百端ノ輸出ス

以下數量少ナキ者又利潤多カラサル者ヲ採録ス

土 石

- 鐵砂ハ三宅島新島等ニ産ス黒色ニシテ光アリ
- 燧甘石ハ八丈島ニアリ之ヲ打テバ鳴ル
- 礬石ハ八丈島榎立村白漆ノ近傍ニ産ス紫白ノ二種アリ
- 銅礦ハ八丈島榎立村赤瀉ヶ鼻ニ在リ斷崖常ニ銅青ヲ生ス

草 木

- 柞木ハ御藏島山野ニ自生スル者多シ
- 朴樹ハ大島其他諸島ニ自然生アリ島民薪トナス
- 海桐花ハ大島三宅御藏島等ニ蕃生ス薪料トナス
- 楸ハ諸島ニ産ス島民木履ヲ作ル
- 渡路ハ大島三宅利島八丈島等ニ産ス土民其用ヲ知ラズ
- 接骨木ハ諸島ニ産ス樹皮ヲ煎シテ折傷ヲ治ス
- 齊墩樹ハ三宅御藏島等ニ生ス材ハ器具ヲ作り又傘ノ鞆ト爲ス可シ
- 交讓木ハ大島三宅御藏島等ニ産ス其長大ナル者ハ船材トナシ又建築

ニ用ウ

○養草ハ大島三宅ニ島ニアリ其子實ヲ内地ニ輸出ス

○細葉冬青ハ八丈三宅大島其他諸島ノ山中ニアリ材ハ薪料ニ供スルニ過ギズ

○矮柏ハびやくまんの一種直上セズシテ地上ニ這フ者大島ノ海岸ニ繁茂ス

○常山ハ大島ニ多シ他島ニ産セズ

○楮ハ八丈新島等ニ産ス三宅大島等ニ近年種植セル者アリ

○蜜香ハ御藏島山中ニ多シ又八丈神津其他諸島ニモ産ス樹皮ヲ染料トス

○蔓荊子ハ大島新島珠ニ式三宅島等海濱ニ多シ其子實ヲ藥品トス

○桃葉珊瑚ハ利島山中極テ多シ大木アリ

○皂莢樹ハ大島新島ニ生ス幹及實ヲ藥用トス

○摩木ハ方言赤木又牛殺ウシコロシ大島其他ニ産ス

○水蠟樹ハ諸島ニ産スレレ大島泉津村ニ良材多シ島民蝦蟇刀其他農具

ノ柄ヲ製ス

○粗榧ハ大島ニアリ實ヨリ燈油ヲ取ル

○榧ハ八丈大島其他諸島ニ自生ス

○胡頹子ハ諸島ニ生ス島民之ヲ伐リテ木耳キミミヲ生ゼシム童子其實ヲ食フ

ハ丈ニテハ田圃ノ周圍ニ植テ風ヲ防ク

○紫陽花ハ八丈其他諸島隨處ニ生セサルハナシ其葉ヲ肥料トシ又牛ヲ養フ

○楊桐ハ諸島山野ニ多シ島民薪炭トス

○食茱萸ハ方言さくたらハ丈三宅大島等山中ニ産シ往々大木アリ其萌芽ヲ食フ

○檜柏ハ諸島往々大木アリ多クハ種植ニカハル

○狗骨ハ御藏島ニ多ク巨木アリ他ノ諸島ニ希レナリ

○珊瑚ハ諸島ニ産スレレ三宅御藏大島ニ多シ御藏島ニハ往々大木アリ

○蚊母樹又赤木ト云フ御藏島南郷ニ産ス近年伐採シテ内地ニ輸出ス

○磨八樹ハ方言ちぎの木ハ丈三宅神津新島等ニ自生多シ其材ヲ薪料ト

さまへんど野へんどノ二種アリ根ハ扁圓ニシテ蒟蒻ノゴトシ島民從來
 まへんどノ根塊ヨリ澱粉ヲ製シ之ヲ團子トナシテ食料ト爲シ、モ近年
 ハ之ヲ食フ者希ナリ野へんどハ昔クシテ食フニ堪へズト云フ
 ○天門冬ハ新島ニ産ス根塊ヲ藥用トシ又砂糖ニ漬テ食フ
 松葉蘭ハ又岩筈ト云フ三宅御藏島ニ多シ二島ノ産殊ニ良品ナリ鉢植
 トシテ玩フ可シ
 ○いくまハ土名ナリ八丈島其他ニ産ス根水仙ノ如シ凶年ニハ水飛シテ
 種トス漢名未詳
 防風ハ大島ニ多シ根ハ藥用トシテ中風ヲ防ク延喜式貢物ニ防風十五
 斤アリ本島ノ産乎其他ニモ産ス
 紫根ハ紫草ノ根ナリ藥用トス徳川幕府ノ時大島ヨリ紫根一斗五升ヲ
 貢物トセシガ貞享元年噴火後之ヲ止ム
 葎若ハ大島利島等ニ産ス
 山薑ハ八丈新島利島等ニテ播種スル者少ナカラス其子實ヲ伊豆縮砂ト
 呼ビテ藥品トス

○附子ハ大島ヨリ産出ス又鷹菊ノ根塊ヲ島頭ト云フ島頭ノ周リニ附
 ク子ヲ附子ト云フ毒藥用ナリ
 ○蒺藜南五味子、早蓮ハ享保九年大島ニ移植セシ藥草ナリ
 毛りハ三宅島ノ方言ナリ苧麻ノ一種ナル可シ同島坪田村ノ特産ニシ
 テ村民之ヲ種植シ其皮ヲ製シテものし織ト云フヲ織ル
 黄麻ハ八丈、三宅、新島、大島等ニテ之ヲ栽培シ繩ヲ編フ料トス
 苧麻ハ諸島ニ産スレモ島民其用ヲ知ラズ
 麻ハ大島其他ニテ栽培スル者アリ
 青茅ハ八丈、神津、新島等ニ産ス莖葉ヲ煮テ黄色ノ染料トナス
 栝樓ハ八丈、御藏、神津、利島等ニ産ス島民其根ヲ採リテ澱粉ヲ製シテ食
 料トス○八丈ノ民花野ヲ曲無頭 ○三宅島ノ方言いのまた曰、此島ノ貢物ニ
 充テタリ
 酸殿アジノキハ八丈其他諸島ニ産ス葉ノ味甘シ四月灌佛會ニ用ウ
 水仙ハ八丈其他諸島ニ蕃生ス葉大ナリ秋季花ヲ開ク
 たましだハ貴衆ノ一種ハ八丈島ニ産ス冬凋マズ

○彌爾桃ハ又こくこト呼ブ大島ニ産ス藤生ノ植物ナリ實ハ冬熟ス食フ可シ

○莖ハ三宅大島等ニテ栽培スル者アレバ多カラズ

○莖ハ諸島産セサルハナシ島民採テ繩ヲ編ヒ又草席船篷等トナス

○萩ハ八丈島ニ多シ莖ノ長丈餘圍五六寸

○風蘭名護蘭ハ三宅御嶽島等ニ産ス

禾 穀

○蕎麥ハ諸島ニテ作レバ多カラズ

○黍稷ハ新島利島等ニテ播種スルモノアリ

○蜀黍ハ諸島ノ民陸田ノ畦畔等ニ種植ス

○玉蜀黍ハ諸島ニテ作ル者アリ

○稗ハ大島新島等ノ民作リテ食料トシ又牛馬ヲ養フ

○大豆小豆ハ八丈大島新島等ニテ栽培スル者アリ

○豌豆蠶豆隱元豆胡麻落花生等ハ諸島ニテ作ル

菜 果

○蕃椒ハ諸島ニ産ス八丈島ニテハ終年繁茂スルヲ茄子ニ同シ

○白芋ハ利島ニテ栽培スル者少ナカラズ此島ノ地味ニ適シ生首頗巨シ

○葛ハ諸島山野ニ自生ス三宅八丈二島尤多シ其根ヨリ葛粉ヲ製ス

○紫吾ハ三宅島ニ多シ莖太ク和カニシテ煮食ス可シ山野ニ繁茂シ秋末

○黄花ヲ開キ美觀ナリ

○蕺菜ハ利島ニ産スルハ莖ノ長サ五六尺ニ至ル

○算盤ハ諸島山野ニ自生ス島民食料トス御嶽神津島等ニテハ常ニ之ヲ採収スルヲ禁シ凶歳ノ食料ニ充ツ

○初背ハ八丈島ニテハ夏秋二回生ス其他諸島ニモ産ス

○山茶背ハ八丈ニ産ス山茶ノ古木ニ生スル箇ナリ四季ヲ別タズ雨後ニ生ス味美ナリ

○木耳ハ諸島自然生アリ又人カニテ發生セシムル者アリ八丈御嶽三宅

島等ヨリ國地ニ輸出ス

○松露ハ新島ニ産ス

○製茶ハ大島、三宅島等ノ民飲料ニ供シ又他島へ輸出ス

○塩ハ三宅島神着坪田ニ村ニテ製ス製法完カラサルヲ以テ勞多ク利少ナク一ヶ年凡三四百俵ヲ得ルニ過ギス往昔ハ諸島ニテ製シタリシモ近世率廢絶ス

○莽草實ハ三宅大島等ヨリ出ダス

○蓆ハ新島ヨリ出ダス○小島ヨリまぐさ蓆ヲ出ダス

○箔ハ小島ニテ製ス長三尺幅二尺五寸許籬ヲ養フ料ナリ島名ゆいが又同島ヨリ箴及籃等ノ竹細エヲ出ダス

○苫ハ大島其他ニテ八九月中菅茅ヲ伐リテ編ミ作ル船ナドニテ屋ヲ覆ヒ雨露ヲ防クニ用ウ

○酒ハ冬春ノ間毎家ニテ醸造シ醱ニテ飲ム醉へハ歌舞以テ歡樂トナス

○石梅、石帆等往々ハ丈島邊ノ海中ニテ得ルコトアリ

伊豆七島志卷之下大尾

後序

豆之屬島以十數、皆海南絕遠之域、地小民陋、固不足以紀述也、然如大島、大古二神奠土、蓋並列乎大八洲矣、推古帝時、降爲國、八丈者、後漢書謂女國、肇傳列乎東夷、其於我也爲荒服、及室町季世、入我版圖、小笠原島、則位于我極南、而大小碁布、其土煖燠、殆與彼嶺南均、奇樹異草生矣、即規畫而關之、則奚啻拓土壤、其產物之益、蓋匪細少也、且華蠻之藥物名菓、甘蔗珍材實足乎、自餘數島、雖叢陋、總之習俗惇龐、崇鬼神、尚緊鷄、恪憲法

伊豆七島志 卷之四
葬無火化之慘、喪有倚廬之戚、以其僻於海外、古風尚存也、夫禮亡而求諸野、吾有所慨矣、章嘗稿豆州輿地、而才識謏劣、加以事務、今也、年已逼桑榆、其成不可期也、於是獨詳錄海島、自以爲、豈慨之不可已哉、斯志也、固紀傳聞耳、誠不若內地之身經目睹之詳、且曩也、然不若而弃之、敦與爲之、嗚矢之愈乎、

寬政辛夷歲冬十有一月

豆州富南秋 山 章

上つ代に、事代主神の、此國土を、天孫に譲りまつりて、後の事は、古典に載せず、世にも傳はらぬこと、いと口惜けれ、されど、伊豆の島々には、此の神、また、后妃御子神の、事の蹟とも、残り傳はれるをもて考ふるに、日本書紀に、海中に八重の蒼柴籬を造り、船の柁を踏て避りましき、古事記に、其船を踏傾け、天の逆手を、青柴垣に打成して、かくりましき、とある後、うからみとも、もの神々を、るて、出雲の國より、はるゝゝと、伊豆の島に、渡り來まして、宮居を構へて、住み給

ひしこと、疑ふへくもあらず、父の翁、世にあり
しころ、官命によりて、此島々をへめぐりて、此
の事どもを、探ね考へられてより、世にうつも
れし古事の、はしめて、つまひらかになりぬる
ことを、いとうれしき事なりけれ、おのれ、今度、秋
山章の記しおける、此書を補ひたゝし、摺巻と
して、世に公にせむとするにつきて、むねと、事
代主神、及、うからの神の、事のあとをしるし、此
神々、やかて、島々を開きし祖神なる事を、こと
ありいひて、つきく、古今の種々の事におよ

べり、されば、此書、古典のかけたるを、補ふとい
はむも、論なかるべし、これ、おのれの勞きには
あられて、父の翁の、世になきあとに、残せる功と
いふへくこと、

明治三十三年七月 萩原正夫記す

伊豆...

明治參拾四年三月五日印刷
同 年同月六日發行

正價金壹圓

纂輯者 萩原正夫
兼發行者

印刷者 青山藤四郎
東京市京橋區木挽町九丁目六番地

印刷所 青山活版所
東京市京橋區木挽町九丁目六番地

萩原正平大人増訂
萩原正夫大人増訂
秋山富南大人原著

○文學博士島田重禮先生序
○文學博士小中村清短先生跋

○ 廣 告

増訂 豆 州 誌

和製美本、全部合巻十六冊、正價
金四圓、着金次第送本ス(目方五
百六十目ニツキ之ニ對スル送費
ヲ要ス)

全部ノ目次ハ建置、疆域、形勝、地質、氣候、風俗、沿革、國造國司、守護職、守護代、租
朝庸、莊園、賣高、石高、及別、租稅、里程、郡鄉、祥異、雜事、町村、山岳、原野、林業、公
林、洞窟、石崖、嶼礁、暗礁、岬角、川溪、橋梁、渡津、池塘、井泉、瀑布、海、懸港、物産、
神祠、佛刹、墳墓、荒墳、古蹟、名勝、流寓、人物、烈女、僧英、等トス

○本書ハ寛政度秋山富南大人ガ舊幕府ノ恩命ヲ蒙リ十數年ノ星霜ヲ經過シ編纂セ
シ伊豆國ノ地誌書ナルガ尚誤脱少ナカラザルヲ以テ今回萩原兩大人大ニ増補訂正
ヲ施シ明治廿一年ヨリ漸次出版ニ着手シ廿八年ヲ以テ漸ク完成セリ記事ノ精密確
實ナルハ本書閱讀シテ知ル可レバ此ニ贅言セス實ニ武相風土記ト共ニ鼎立シテ全
國無比ノ良地誌ト謂可シ

伊豆國三島 榮 樹 堂 敬 白

徳久堂書店
東京
神田

